

2025

# 大学院要覧

FERRIS UNIVERSITY  
GRADUATE SCHOOLS

人文科学研究科／国際交流研究科／音楽研究科

# 2025年度学事日程カレンダー

## 前期

4月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			

(2024年度後期成績通知:3月末)

- 4/1 入学式
- 4/2 履修相談(在学生)
- 4/2~9 オリエンテーション期間
- 4/3 AA面談※1
- 4/3,4 健康診断
- 4/3~7 履修登録期間①
- 4/4 9月卒業・修了希望届提出期限
- 4/4 履修相談(新入生)
- 4/7 Ferris Welcome Day
- 4/9~17 履修登録期間②
- 4/10 前期授業開始
- 4/29 授業実施日

5月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

- 5/1,2 全学休講
- 5/3,5,6 授業実施日
- 5/9 卒業論文等※2題目届提出期限(9月卒業予定者)
- 【院】修士論文等※3題目届提出期限(9月修了予定者)

5/30 避難訓練(緑園・山手)

6月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					

- 6/1 創立記念日
- 6/6 【院】修士学位申請論文提出資格確認願提出期限
- 6/12 キリスト救済演会(昼休み)
- 6/12~16 前期集中講義履修登録期間①

6/18,19 前期集中講義履修登録期間②

6/30 前期第14週試験時間割・レポート試験発表

7月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

- 7/1~14 英語プレズメント・テスト実施期間(第1回)
- 7/5 学部補講日
- 7/7 前期第15週試験時間割発表
- 7/7,8 卒業論文等※2提出日(9月卒業予定者)
- 7/7~9 【院】修士論文等※3提出期間(9月修了予定者)
- 7/14~18 第14週試験
- 7/19 学部補講日
- 7/21 授業実施日
- 7/21~25 第15週試験
- 7/25 前期授業終了
- 7/26,28,29 PA発表会
- 【院】修士学位審査研究発表・演奏会(9月修了予定者)(音楽)
- 7/26~9/11 夏季休業
- 7/30~8/1,4,5 前期集中講義期間(第1ターム)

※1 AA面談:アカデミック・アドバイザー面談

※2 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業プロジェクト」

※3 「修士論文」「修了レポート」「修士研究・修士副論文」

は授業外期間、 の休日は授業実施日

2025年1月現在。変更が生じた場合は、随時FerrisPassport掲示にてお知らせいたします。

8月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

7/30～8/1、4、5 前期集中講義期間(第1ターム)

8/6 サマーリゾート

8/21、22 追試験日

8/25～29 前期集中講義期間(第2ターム)

9月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20

9/1～5 【院】修了レポート提出期限(国際)

9/9 9月卒業・修了者発表、成績通知(1～4年次)

9/16 9月卒業再試験日

後 期

9月	日	月	火	水	木	金	土
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				

9/12 AA面談<sup>※1</sup>、履修相談日(午後)

9/12～16 履修登録期間①

9/19～29 履修登録期間②

9/20 【院】後期授業開始

9/22 【学部】後期授業開始

9/23 授業実施日

9/24 9月学位授与式

10月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

10/10 卒業論文等<sup>※2</sup>題目届提出期限

10/10 【院】修士研究・修士副論文<sup>※3</sup>題目届提出期限(音楽)

10/11 緑園キャンパス入構禁止<sup>※4</sup>

10/13 授業実施日

10/27 遊離訓練(緑園・山手)

10/30 【院】修士論文・修了レポート<sup>※3</sup>題目届提出期限(人文・国際)

11月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						

11/1～4 大学祭期間(全学休講)

11/2、3 大学祭

11/5 キリスト教講演会(3限)、学部補講日、【院】みなし土曜授業日

11/13～17 後期集中講義履修登録期間①

11/15 学部補講日

11/19、20 後期集中講義履修登録期間②

11/22 緑園キャンパス入構禁止<sup>※4</sup>

11/24 授業実施日

※1 AA面談:アカデミック・アドバイザー面談

※2 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業プロジェクト」

※3 「修士論文」「修了レポート」「修士研究・修士副論文」

※4 緑園キャンパス入構禁止:入試のため

■は授業外期間、□の休日は授業実施日

2025年1月現在。変更が生じた場合は、随時FerrisPassport揭示にてお知らせいたします。

12月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

12/1~3 【院】修士研究・修士副論文\* 提出期間(音楽)  
 12/8、9 卒業論文等\*\* 提出日  
 12/8~12 【院】博士学位申請論文提出期間  
 12/11 学部補講日(午前)、【院】みなし土曜授業日、  
 クリスマス礼拝(午後休講)  
 12/12 後期第14週試験時間割・レポート試験発表  
 12/13 学部補講日  
 12/19 後期第15週試験時間割発表  
 12/23~1/4 冬季休業

1月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

1/5 授業再開  
 1/5、9、13~15 第14週試験  
 1/6~8 【院】修士論文・修了レポート\* 提出期間(人文・国際)  
 1/6~19 英語ライズメントテスト実施期間(第2回)  
 1/8 【院】博士学位申請論文提出資格確認願提出期限  
 (次年度9月修了予定者)  
 1/16~18 緑園キャンパス入構禁止\*\*  
 1/19~23 第15週試験  
 1/23 【学部】後期授業終了  
 1/24 【院】後期授業終了  
 1/26~28 緑園キャンパス入構禁止\*\*  
 1/29~31 PA発表会

2月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28

2月上~中旬 【院】最終試験期間  
 2/2~4 【院】修士学位審査研究発表・演奏会(音楽)  
 2/2~6 後期集中講義期間(第1ターム)  
 2/9 追試験日(4年次)  
 2/13、14 緑園キャンパス入構禁止\*\*  
 2/24 卒業・修了者発表(博士後期以外)

3月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

3/3、4 追試験日(1~3年次)  
 3/4 卒業再試験日(4年次)  
 3/5、6、9~11 後期集中講義期間(第2ターム)  
 3/9 修了者発表(博士後期)  
 3/12~19 【院】修了レポート1提出期限(国際)  
 3/19、20 卒業礼拝・学位授与式

(2025年度後期成績通知:3月末)  
 (2026年度入学式:4/1)

※1 「修士論文」「修了レポート」「修士研究・修士副論文」

※2 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業プロジェクト」

※3 緑園キャンパス入構禁止:入試のため

は授業外期間、 の休日は授業実施日

2025年1月現在。変更が生じた場合は、随時FerrisPassport掲示にてお知らせいたします。

## 2025年度授業日一覧

の休日は授業実施日

【前期】		月(Mon.)	火(Tue.)	水(Wed.)	木(Thu.)	金(Fri.)	土(Sat.)
2025年	第1回	4月14日	4月15日	4月16日	4月10日	4月11日	4月12日
	第2回	4月21日	4月22日	4月23日	4月17日	4月18日	4月19日
	第3回	4月28日	4月29日	4月30日	4月24日	4月25日	4月26日
	第4回	5月5日	5月6日	5月7日	5月8日	5月9日	5月3日
	第5回	5月12日	5月13日	5月14日	5月15日	5月16日	5月10日
	第6回	5月19日	5月20日	5月21日	5月22日	5月23日	5月17日
	第7回	5月26日	5月27日	5月28日	5月29日	5月30日	5月24日
	第8回	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日	6月6日	5月31日
	第9回	6月9日	6月10日	6月11日	6月12日	6月13日	6月7日
	第10回	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日	6月20日	6月14日
	第11回	6月23日	6月24日	6月25日	6月26日	6月27日	6月21日
	第12回	6月30日	7月1日	7月2日	7月3日	7月4日	6月28日
	第13回	7月7日	7月8日	7月9日	7月10日	7月11日	7月5日
	第14回	7月14日	7月15日	7月16日	7月17日	7月18日	7月12日
	第15回	7月21日	7月22日	7月23日	7月24日	7月25日	7月19日

【後期】		月(Mon.)	火(Tue.)	水(Wed.)	木(Thu.)	金(Fri.)	土(Sat.)
2025年	第1回	9月22日	9月23日	9月24日	9月25日	9月26日	9月20日
	第2回	9月29日	9月30日	10月1日	10月2日	10月3日	9月27日
	第3回	10月6日	10月7日	10月8日	10月9日	10月10日	10月4日
	第4回	10月13日	10月14日	10月15日	10月16日	10月17日	10月18日
	第5回	10月20日	10月21日	10月22日	10月23日	10月24日	10月25日
	第6回	10月27日	10月28日	10月29日	10月30日	10月31日	11月5日 みなし土曜日
	第7回	11月10日	11月11日	11月12日	11月6日	11月7日	11月8日
	第8回	11月17日	11月18日	11月19日	11月13日	11月14日	11月15日
	第9回	11月24日	11月25日	11月26日	11月20日	11月21日	11月29日
	第10回	12月1日	12月2日	12月3日	11月27日	11月28日	12月6日
	第11回	12月8日	12月9日	12月10日	12月4日	12月5日	12月11日 みなし土曜日
	第12回	12月15日	12月16日	12月17日	12月18日	12月12日	12月13日
2026年	第13回	12月22日	1月6日	1月7日	1月8日	12月19日	12月20日
	第14回	1月5日	1月13日	1月14日	1月15日	1月9日	1月10日
	第15回	1月19日	1月20日	1月21日	1月22日	1月23日	1月24日

## 2025年度手続きスケジュール（2025/4/1～2026/3/31）

手続窓口：特別の指定がない限り、教務課・山手事務室となります。（ただし、博士後期課程に関する手続きは教務課のみ。）

手続時間：特別の指定がない限り、各課室の開室時間となります。

種別	参照ページ	手続き	期間・期限	手続窓口	備考
履修	19	全般（履修登録、履修者選抜科目受付、訂正等）	—	—	参照ページで確認
研究計画	文：38, 42 国：51, 59 音：66	研究主題・指導教授等届	～4/10		1年次生
	文：43 国：59	研究計画書	～4/10		博士後期課程
	文：43 国：59	研究報告書	～1/9	各自の指導教授	博士後期課程
FD	29	FD活動報告書	～3/31		博士後期課程
修士論文等	25	9月修了希望届	～4/4		
	25	【9月修了】修士論文等題目届	～5/9		
	25	【9月修了】修士論文	7/7～7/9		各日11:00-16:00
	52	「修了レポート1」	9/1～9/5		国際交流研究科「修了レポート」 選択者
	24	修士論文等題目届	～10/10		音楽研究科
			～10/30		人文科学研究科・国際交流研究科
	24	修士論文等	12/1～12/3		音楽研究科 各日11:00-16:00
1/6～1/8				人文科学研究科・国際交流研究科 各日11:00-16:00	
52	「修了レポート1」	3/12～3/19		国際交流研究科「修了レポート」 選択者	
博士論文等	27	学位申請論文提出資格確認届	～6/6		判定結果発表は9月中旬
	27	博士の学位申請論文	12/8～12/12		各日11:00-16:00
	27	【次年度9月修了】学位申請論文提出資格確認届	～1/8		判定結果発表は3月中旬
	27	【次年度9月修了】博士の学位申請論文	次年度 6/8～6/12		各日11:00-16:00
単位認定	22	入学前他大学等における履修による単位認定申請	～4/2		1年次生のみ
休学・退学	89	【前期】休学願	～5月 最終開室日		前期、通年分
	91	【前期】退学願	～9月 最終開室日		前期末退学
	89	【後期】休学願	～11月 最終開室日		後期または後期から1年間
	91	【後期】退学願	～3月 最終開室日		後期末退学



# 目 次

## 2025年度日程

学事日程カレンダー	p.1
授業日一覧	p.4
手続きスケジュール	p.5

## 建学の精神・教育理念

建学の精神・教育理念、人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	p.8
--	-----

## 大学院共通事項

履修	p.12
単位制度	p.16
履修登録	p.17
単位認定	p.21
修了要件・学位申請論文等	p.23
教育・研究能力の開発・向上	p.29

## 大学院教育課程

人文科学研究科	p.32
博士前期課程	p.36
博士後期課程	p.41
国際交流研究科	p.46
博士前期課程	p.48
博士後期課程	p.57
音楽研究科	p.62
修士課程	p.63

## 大学院開講科目表

### 人文科学研究科

英語英米文学専攻博士前期課程	p.72
日本語日本文学専攻博士前期課程	p.74
コミュニケーション学専攻博士前期課程	p.76
英語英米文学専攻博士後期課程	p.78
日本語日本文学専攻博士後期課程	p.79
コミュニケーション学専攻博士後期課程	p.80

### 国際交流研究科

国際交流専攻博士前期課程	p.81
国際交流専攻博士後期課程	p.84

### 音楽研究科

音楽芸術専攻修士課程	p.85
------------	------

## 学 籍

学籍	p.88
----	------

## 資 料 編

組織	p.94
フェリス女学院大学の沿革	p.95
専任教員一覧	p.97
役職者等	p.99
教務主任・教務委員、教務責任者、 科目責任者・語学責任者	p.100
2025年度の主な制度変更	p.101

## 建学の精神・教育理念

### 建学の精神

フェリス女学院は、キリスト教の信仰に基づく女子教育を行うことを建学の精神としています。

### 教育理念

さらに、フェリス女学院は「For Others」という教育理念を掲げています。これは、建学以来の永い歴史のなかで自然に人々の心の中で形をなし、学院のモットーとして受け継がれるようになったものです。

この言葉は「他者のために」と訳すことができます。自分やちかしい人だけではなく、より広い視野から他者の存在をも考えに入れて、他者のために行動することを、本学で学ぶ一人一人が受け継いでいます。

### 人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

#### ◆人材養成目的

フェリス女学院大学大学院は、「キリスト教を教育の基本方針となす本学の建学の精神に基づき、高度の専門の学術に関して、その研究方法、理論及び応用を教授研究し文化の進展に寄与するとともに、人類の福祉と世界の平和に貢献する能力をもった女性を育成することを目的」（大学院学則第1条）としている。

フェリス女学院大学大学院では、上記の人材養成目的を実現するために、各研究科・専攻におけるディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを定めています（下記該当ページを参照してください）。

ディプロマ・ポリシーは大学から社会に対する約束です。博士前期（修士）、博士後期課程を修了する時点で最低限できるようになっていることを表しています。したがって、ディプロマ・ポリシーは、修了時には必ず達成されなければなりません。

カリキュラム・ポリシーは、この達成のために学生が体系的と整合性が担保されたカリキュラムで学べるよう定めるものです。

### 各研究科、専攻

次の該当ページを参照してください。

人文科学研究科 ..... pp.32~33

国際交流研究科 ..... p.46

音楽研究科 ..... p.62

## 大学院共通事項

履 修

修了要件・学位申請論文等

教育・研究能力の開発・向上

## 大学院教育課程

人文科学研究科

国際交流研究科

音楽研究科

## 大学院開講科目表

学 籍

資 料 編



履 修

修了要件・学位申請論文等

教育・研究能力の開発・向上

# 履 修

## 授 業

### 授業時間

緑園校舎・山手校舎ともに学部に準じます。

緑園校舎

第1時限	第2時限	礼拝(月～金)	第3時限	第4時限	第5時限
9:00 } 10:30	10:40 } 12:10	12:20 } 12:40	13:10 } 14:40	14:50 } 16:20	16:30 } 18:00

山手校舎

第1時限	第2時限	礼拝(木)	第3時限	第4時限	第5時限
9:10 } 10:40	10:50 } 12:20	12:30 } 13:00	13:50 } 15:20	15:30 } 17:00	17:10 } 18:40

国際交流研究科(緑園校舎)で夜間開講とする場合の授業時間は次のとおりです。

第6時限	第7時限
18:10 } 19:40	19:50 } 21:20

### スクールバス時刻表

両キャンパスを1日に2往復しています。(定員:26名)

便	山手		緑園
	150周年記念館(6号館)	4号館	
1	12:25	12:30	13:05
3	15:35	15:40	16:15

便	緑園	山手	
		150周年記念館(6号館)	4号館
2	13:10	13:40	13:45
4	16:30	17:05	17:10

年間運行日はバス停に掲示します。授業期間外は運休です。

## 休 講

大学又は各授業科目の担当教員にやむを得ない事情が発生した場合、授業を休講とすることがあります。休講情報は、FerrisPassportで周知します。

休講の掲示がなく、授業開始後30分以上経過しても担当教員が入室しない場合は、自然休講とします。

休講についての電話照会には応じません。

## 全学休講措置

休講措置をとる場合は、本学 Web サイト、FerrisPassport 及び緊急連絡システムで周知します。  
状況により規定時刻以前に休講あるいは授業実施を決定する場合があります。

また、いずれの場合においても、遠隔授業科目については通常通り実施する場合があります。

## 交通機関運行停止（計画運休含）の場合

台風・大雨・大雪等の各種自然災害や事故等による鉄道等交通機関の運行停止の場合、各校舎において次のような措置をとります。

午前6時までに復旧している	平常どおり授業実施
午前10時までに復旧している	1・2 限休講
午前10時までに復旧していない	終日休講 <sup>※1</sup>

※1 授業開始後に警報の発令があった場合は、それ以降の当日の授業は終日休講とする。  
状況に応じて遠隔授業を実施する場合もある。

対象となる交通機関

緑園校舎：相鉄線

山手校舎：JR 根岸線及びみなとみらい線<sup>※2</sup>

※2 山手校舎については、両線が不通となった場合のみ。いずれかの線が運行している場合は該当しない。

原則として、人身事故・車両故障等による一時的な運行停止・遅延の場合は、休講措置の対象となりません。  
なお、休講措置をとる場合は、本学 Web サイト、FerrisPassport 及び緊急連絡システムにて周知します。

## 神奈川県下に暴風警報、暴風雪警報又は特別警報が発令された場合

台風接近等により、神奈川県全域又は神奈川県東部（「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」）に暴風警報又は暴風雪警報が発令された場合、次のような措置をとります（警報は「気象庁」もしくは「横浜地方気象台」（045-177）発表のものとします）。

また、神奈川県全域又は神奈川県東部（「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」）に特別警報（大雨、暴風、暴風雪及び大雪）が発令された場合も、上記に準じます。

午前6時までに警報が解除されている	平常どおり授業実施
午前10時までに警報が解除されている	1・2 限休講
午前10時までに警報が解除されていない	終日休講 <sup>※1</sup>

※1 授業開始後に警報の発令があった場合は、それ以降の当日の授業は終日休講とする。  
状況に応じて遠隔授業を実施する場合もある。

なお、休講措置をとる場合は、本学 Web サイト、FerrisPassport 及び緊急連絡システムにて周知します。

### 感染症などが流行した場合

行政機関の方針に従い、休講及び授業の実施を決定します。

### 補 講

大学又は各授業担当教員のやむを得ない事情により、休講となった授業については、原則として補講を行います。また、各授業担当教員の判断により補講を実施することがあります。

補講情報は、FerrisPassport で周知します。授業担当教員から直接指示があった場合、その指示に従ってください。

## 授業欠席

大学では、授業を欠席する場合、原則として授業担当教員に伝達するなどの措置はとりません。ただし、下記の事情により欠席する場合には、「感染症罹患届」又は「欠席届」の手続き※1を受け付けますので、速やかに申し出てください。ただしこれは出席扱いを保証するものではありません。

学生は当日行われた授業内容を確認し、配布資料や提出物等について指示を確認し、自身で欠席時間分の学修を回復することが求められます。

欠席・遅刻はともに「程度」にかかわらず、授業の運営に大いに支障をきたします。したがってその扱いについては当該授業実施方法（講義、演習、実習）や授業計画に基づき、当該授業担当教員の判断によるものとします。

	欠席理由・状況	取扱窓口	必要書類	備考
①	感染症にかかった	教務課	「診断・登校許可証明書」または「医師の診断書」（出席停止期間が確認できるもの）	※2を参照。
②	傷病等の理由により、2週間以上続けて欠席する	教務課	「医師の診断書」等、欠席理由・期間を証明できるもの	
③	忌引	教務課	欠席日を確認できる「会葬礼状」または死亡を確認できる公的証明書（写）	※3を参照。
④	裁判員に選任され、審理に参加する	教務課	裁判所が発行する証明書	
⑤	その他特別な事情により、2週間以上続けて欠席する	教務課	理由を証明する書類	

証明書類は当該科目の授業日に出席できなかったことを証明するもの、「〇月〇日～〇月〇日」のように期間が明記されたものでなければなりません。

欠席理由の終了後2週間以内に、必要書類を教務課に提出してください。

### ※1 「感染症罹患届」、「欠席届」の申請について

授業出欠に係る申請は、FerrisPassportのLinkにある「[教務課申請サイト](#)」>授業>授業出欠に係る申請から手続きを行ってください。[授業・学籍等申請サイト（学生）](#)

### ※2 感染症にかかった場合

学校感染症（学校保健安全法施行規則第18条）にかかっていると疑われる場合には、通学を見合せ、速やかに医師の診療を受けてください。

医師が通学を許可するまでの期間、出席停止となります。授業への出席・試験の受験は認められません。

なお、「診断・登校許可証明書」は本学公式HP（[https://www.ferris.ac.jp/mt\\_img/certificate.pdf](https://www.ferris.ac.jp/mt_img/certificate.pdf)）から入手することができます。

→『Ferris Handbook2025』（p.83）

### ※3 忌引の場合

次の続柄の親族が亡くなった場合は、必要書類をもって教務課に申し出てください。忌引日数は、死亡日もしくは葬儀の日を含む次のとおりとします。日数には、土日・祝日を含みます。

続 柄	忌引日数
配偶者、父母、子	連続7日以内
配偶者の父母	連続5日以内
祖父母、孫、兄弟姉妹、配偶者の兄弟姉妹	連続3日以内

# 単位制度

## 本学で修得した単位の認定

単位の認定は、試験その他の大学が定める適切な方法により学修の成果を評価して行われます（大学院学則第10条）。

授業の方法により、教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次のとおり単位数を定めています。なお、本学では1回（90分）の授業を 2時間 として計算しています。

### 1. 単位数

#### (1) 講義科目・演習科目

毎週2時間、1学期15週の授業で2単位とします。

#### (2) 選択PA科目（音楽研究科のみ）

実技レッスンA,B	毎週1時間、1学期15週の授業で3単位
特別実技レッスンA,B	毎週1/3時間、1学期15週の授業で1単位

### 2. 単位の認定

筆記・口頭もしくは実技による試験又は研究報告によるものとします。

# 履修登録

## 履修上の注意

### 1. 履修方法

各専攻の「授業科目の履修方法」を見てください。

### 2. 履修登録

履修登録は、学生がその学期・学年に履修するすべての授業科目を申告する手続きです。定められた期間に、履修登録及びその確認を行わない学生は、その学期における履修の権利を放棄したものとみなします。また、履修登録及びその確認の手続き不備等による不利益は本人の責任となるので、十分注意してください。

#### (1) 履修登録上の注意

- ① 履修登録は、本人の責任において行うこと。
- ② 履修上の注意に違反して履修登録を行うことはできない。
- ③ 履修登録は、定められた履修登録期間のみ受け付ける。理由なく手続きを行わなかった場合は、当該学期・学年の授業科目の履修は一切認められない。
- ④ 通年科目は前期に履修登録を行うこと。
- ⑤ 集中講義科目及び海外研修など、休業期間を利用した授業科目は、通常科目とは異なる日程で履修登録を行うので注意すること。  
→p.19「2025年度履修のスケジュール」
- ⑥ 履修登録を行った際には、必ず PC サイトから「学生時間割表」を印刷、保存しておくこと。(登録の確認を行う際、「学生時間割表」が唯一の根拠となります。)

#### (2) 履修登録

- ① 学内の PC をはじめ、インターネットに接続できる環境であれば学外からも登録できます。FerrisPassport は PC 版及びスマホ版がありますので、アクセス機器に応じて適切なサイトを利用してください。なお、利用環境により動作保証外の場合があり、システムが正常に動作しない可能性があります。履修登録確定後は、必ず PC サイトから「学生時間割表」を印刷し、保存してください。  
履修登録期間中、システムに不具合が生じたり学内での PC の稼動状況に変更があった場合には、次の方法でお知らせします。
  - ・本学公式 web サイト (<https://www.ferris.ac.jp/>)
  - ・FerrisPassport
- ② 履修登録期間中には、学内の PC 利用が混雑したり、PC の動作が遅くなることも予想されますので、あらかじめ科目を決定したうえで、時間的な余裕を十分に持って登録してください。
- ③ 履修登録期間終了後の登録科目の追加・変更は、必修相当の授業科目を除き、認められません。

#### (3) 遅延登録

やむを得ない理由(学部の追試験許可理由に準ずる。)により、履修登録期間に手続きできない場合は、最終日の翌日から数えて7日以内(休日を含む。)に「遅延登録願」(教務課備付)及び必要な証明書類等を提出し、許可された場合のみ履修登録を行うことができます。

その他の理由で遅延して履修登録を希望する者は、「遅延登録願」(教務課備付)の提出をもって願い出たうえで、許可された場合のみ履修登録を行うことができます。この場合、遅延手数料(5,000円)が必要です。

(4) 登録確認・訂正申告

履修登録期間終了の翌日以降、FerrisPassport で登録科目の確認ができます。必ず履修登録時の「学生時間割表」と照合し、その学期に履修すべき科目がもれなく登録されているかを確認してください。

登録されていない科目がある場合は、履修登録時の「学生時間割表」を添えて、定められた期日までに教務課で訂正申告の手続きを行わなければなりません。

3. 集中講義科目の履修

授業科目によっては、通常の授業期間外に、集中講義によって授業を行うことがあります。

(1) 日程

実施期間は、学事日程 (pp.1~3) を参照してください。

科目ごとの日程・授業時間の詳細は、各学期始めに FerrisPassport でお知らせします。

(2) 注意事項

- ① 修了予定者は修了学期に集中講義期間 (第2ターム) の科目を履修することはできません。
- ② 日程が重複する複数の集中講義科目がある場合、履修できるのは一科目のみです。
- ③ 集中講義の日程が他の学事と重なることによって、すべての授業に出席できない場合、当該集中講義科目を履修することはできません。

履修登録の方法等は、学部準じます。ただし、大学院学生に対しては、GPA 制度及び履修科目取消制度は適用されません。

詳細は4月のオリエンテーションで確認してください。

### 他専攻、他研究科、学部の授業科目の履修

(1) 指導教授が学生の研究上特に必要と認める場合

指導教授が学生の研究上特に必要と認めるときは、他専攻、他研究科、学部の授業科目を履修させることがあります。その授業科目の単位については、所属する研究科の研究科委員会で審議のうえ、承認が得られた場合に、**8単位を超えない範囲**で博士前期課程・修士課程の修了に必要な単位として認められます。

ただし、研究科への入学以前に、本学の学部において修得した授業科目のうち、重複履修不可の授業科目を再度履修した場合には、これを修了要件に算入することはできません。

(2) 学生本人が希望する場合

学生本人の希望により、他専攻若しくは他研究科又は学部の授業科目の履修をする場合は、所属する研究科の研究科委員会の承認が得られた科目に限り履修が認められます。

なお、この場合は、修了に必要な単位としては認められません。

(3) 長期履修学生の場合 (国際交流研究科のみ)

別に定めます。国際交流研究科博士前期課程「履修方法」(p.49) を参照してください。

#### 履修手続方法

上記 (1) (2) により、他専攻若しくは他研究科又は学部の科目を履修する場合は、「他専攻、他研究科、学部の授業科目履修願」(教務課備付) に記入のうえ、教務課に提出してください。

語学科目の履修を希望する場合は、語学責任者の許可が必要です。

詳細については、4月オリエンテーション時に説明します。

## 2025 年度 履修のスケジュール

	前期	後期	参照・備考
成績通知	3月末 (2024年度後期分)	9月9日(火) (2025年度前期分)	
成績評価確認願 (希望者のみ)	4月上旬	9月19日(金) 17:00	
履修登録① 選抜受付	4月3日(木) 15:00 ～4月7日(月) 12:00	9月12日(金) 9:00 ～9月16日(火) 12:00	集中講義科目や海外短期研修など、休業期間を利用した授業科目の履修登録期間は、通常の科目とは別に設定されています(下記参照)。
履修登録① 選抜結果発表	4月9日(水) 17:00	9月19日(金) 17:00	発表は FerrisPassport で行います。定員に満たない科目の追加募集については FerrisPassport の掲示を確認してください。

### 授 業 受 講 開 始

履修登録②	4月9日(水) 18:00 ～4月17日(木) 9:00	9月19日(金) 18:00 ～9月29日(月) 9:00	
履修登録確認・訂正申告・ 遅延登録	4月18日(金) 9:00 ～4月24日(木) 18:00	9月30日(火) 9:00 ～10月6日(月) 18:00	pp.17～18 参照 この期日を過ぎた申し出は理由の如何を問わず一切認めません。 遅延登録者の履修登録確認は登録日から7日以内(土日を含む)。
履修登録① 選抜受付 (集中講義、海外語学実習等科目のみ)	6月12日(木) 9:00 ～6月16日(月) 18:00	11月13日(木) 9:00 ～11月17日(月) 18:00	pp.17～18 参照
履修登録① 選抜結果発表 (集中講義科目)	6月17日(火) 17:00	11月18日(火) 17:00	発表は FerrisPassport で行います。定員に満たない科目の追加募集については FerrisPassport の掲示を確認してください。
履修登録② (集中講義科目)	6月18日(水) 9:00 ～6月19日(木) 17:00	11月19日(水) 9:00 ～11月20日(木) 17:00	
履修登録確認・訂正申告・ 遅延登録 (集中講義科目のみ)	6月20日(金) 9:00 ～6月26日(木) 18:00	11月21日(金) 9:00 ～11月27日(木) 18:00	pp.17～18 参照 この期日を過ぎた申し出は理由の如何を問わず一切認めません。 遅延登録者の履修登録確認は登録日から7日以内(土日を含む)。

## 試験

担当教員の指示に従ってください。学部の授業科目の試験については、「学生要覧」(学部生対象)の「試験」を参照してください。

## 成績評価

### 1. 成績評価

成績評価の基準は、次のとおりです。

	評価	評 価 基 準	
合 格	A	100点～80点	到達目標を達成し、優れた水準に達している。
	B	79点～70点	到達目標を達成し、良好な水準に達している。
	C	69点～60点	到達目標を達成している。
不 合 格	F	59点～ 0点	到達目標を達成していない。
	G	—	筆記・実技試験を欠席、もしくはレポートを提出しなかった。
	H	—	出席が3分の2に満たず受験資格なしと判定された、不正行為、もしくはその他の理由による。

### 2. GPA 制度

大学院学生に対しては、GPA 制度は適用されません。

### 3. 成績通知 (FerrisPassport)・成績証明書への表示

成績通知の際には上記の評価がすべて表示されますが、成績証明書には「F」「G」「H」は表示されません。また、本学以外で修得した単位の認定については、成績通知及び成績証明書に授業科目名：「単位認定」、評価：「N」と記載されます。

### 4. 成績通知

学部に準じます。「学生要覧」(学部生対象)の「成績評価」を参照してください。

### 5. 成績評価に関する問い合わせ

学部に準じます。「学生要覧」(学部生対象)の「成績評価」を参照してください。

## 単位認定

### 他の大学院等で修得した単位の認定

他の大学院又は研究所等の授業科目を修得した単位は、研究科委員会の定めるところにより、10単位を超えない範囲で本大学院において修得したものとみなすことができます（大学院学則第9条）。

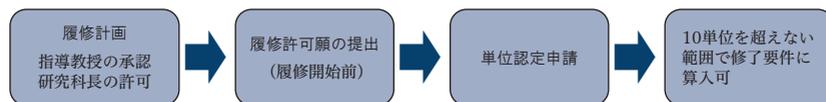
なお、外国の大学院又は研究科委員会で教育上有益と認めた研究所等で修得した単位の認定についても、上記に準じて手続きを行ってください。

#### (1) 手続き

指導教授の承認を得て、他大学院の授業科目履修の手続きを行い、研究科長の許可を得た後、履修願を提出しなければなりません。

#### (2) 修了要件への算入

この方法により修得した単位は、合わせて10単位を超えない範囲で、博士前期課程又は修士課程の修了に必要な単位（選択科目の単位）として認められます。



申請先	教務課
申請方法	<p>次の①→②の順序で手続きが必要です。</p> <p>① 履修開始前 「他大学院等での科目等履修願」（教務課備付）に記入し、指導教授の承認印を得たうえで、次の書類を添付して提出してください。修了予定学期における履修は修了要件に含まれない場合がありますので、あらかじめ教務課に相談してください。 添付書類：履修予定の大学院等の履修要項 履修する講義内容（シラバス）</p> <p>② 履修後 「単位認定申請書」（教務課備付）に必要書類<sup>*</sup>を添付して提出してください。提出後に教務委員との面談を行います。 <sup>*</sup>必要書類については、履修前に教務課窓口にて説明します。</p>
手続き期限	<p>① 原則として履修開始の3か月前まで。 <sup>*</sup>授業実施期間外（夏季・春季休業期間中など）は教務委員との面談ができない場合があるので、余裕をもって申請してください。 <sup>*</sup>新入生の申請期限については、教務課に問い合わせてください。</p> <p>② 履修終了後1か月以内</p>

## 神奈川県内大学院学術交流協定で修得した単位

神奈川県内の大学間における学術交流に関する協定に基づき、協定校の特別聴講学生、特別研究生となること及び共同研究への参加ができます。

履修・単位認定申請については、次のとおりです。

申請先	教務課
申請方法	指導教授と相談のうえ、「特別聴講学生推薦書」及び「特別聴講学生申請書」(FerrisPassportで配布)を提出してください。 詳細は、資料 (FerrisPassport で配布) で確認してください。
申請期限	各大学院が設定した締切日4日前まで (受入先大学院によっては、後期に申請を受け付ける場合があります。詳細は教務課に問い合わせてください。)
注意事項	① 時間割、講義内容については各大学の web サイトで閲覧してください。 ② 修得した単位は、「他の大学院等で修得した単位」に準じた扱いとします。 ③ 修了予定学期の単位は修了要件単位としては認められません。

## 入学前に本学大学院または他の大学院等で修得した単位

本学大学院への入学以前に、本学大学院あるいは他の大学院で修得した単位は、所定の手続きにより、本学大学院で修得したものとみなすことができます。

### (1) 手続き

単位認定を希望する者は、下記のとおりに所定の手続きにて申請してください。研究科委員会で審議のうえ、認定の可否を決定します。なお、この場合の単位認定申請は、入学年度に限って受け付けます。

### (2) 修了要件への算入

合わせて10単位まで、本学大学院で修得したものとみなすことができ、博士前期課程の修了に必要な単位 (選択科目の単位) として認められます。

ただし、国際交流研究科は、入学前に本学大学院で修得した単位のみ、選択必修分の修了要件単位として認めることがあります。

申請方法	「単位認定申請書」(教務課備付)に記入し、次の書類を添えて提出してください。 添付書類: 「成績証明書」「認定希望科目のシラバス (講義内容)」
------	---

→スケジュール、手続窓口はp.5

## 修了要件・学位申請論文等

### 博士前期課程・修士課程・博士後期課程共通

#### 1. 修了者発表

次の日時に掲示、FerrisPassport によって発表します。

日時	博士前期、修士：2026年2月24日（火）夕方 博士後期：2026年3月9日（月）夕方
場所	FerrisPassport

#### 2. 早期修了制度

各課程において特に優れた業績を上げた者を対象として早期修了制度を設けています。早期修了制度の利用が認められた場合、最短1年（博士後期課程においては、修士課程又は博士前期課程における在学期間を含めて3年）で修了が可能です。利用基準は各専攻で次のように定めています。なお、早期修了制度を利用する場合でも、修了要件単位（人文科学研究科 pp.36, 41、国際交流研究科 pp.48, 57、音楽研究科 p.63）は変わりません。

専攻	基準
日本語日本文学	「特に優れた研究業績」の基準として、博士前期課程の学生には査読論文1本以上、博士後期課程の学生には査読論文3本以上の要件を課す。
音楽芸術	次の各号に定める事項（1）から（5）のいずれかを満たし、指導の教員による研究活動および研究評価の所見を経る。指導の教員による申し出を受けて組織された「早期修了候補者選考委員会」により「優れた業績を上げた」と評価された後、（3月修了の場合は6月末までに、9月修了の場合は前年度12月までに）研究科長に大学院早期修了を申し出ることができる。 （1）過去5年以内に学術雑誌に掲載された論文1点の原本の提出。掲載が予定されている論文を添える場合は、学術雑誌の発行元が発行した採択決定の通知のメールまたは手紙の写しを提出 （2）国内外の演奏・作曲コンクールにおいて、最優秀賞に相当する賞を受賞した場合は、それを証明する書類の提出 （3）音楽もしくは映像作品を、国内外で認知されたレーベルからリリースした場合は、それを証明する書類の提出 （4）国内外で認知された学会においてプレゼンテーションした場合は、タイトルと発表者の名前、日付等が掲載されている公式の印刷物の提出 （5）上記（1）～（4）以外の形態であっても、第三者による評価を得て顕著な業績を挙げたことが認められる者

上記以外の専攻については、個別に対応します。利用にあたっては各専攻教務委員に相談してください。

## 博士前期課程・修士課程

### 修了要件・履修方法

各研究科の指示に従ってください。(人文科学研究科 pp.36～37、国際交流研究科 pp.48～50、音楽研究科 pp.63～65)

### 修士論文(人文科学研究科・国際交流研究科<sup>※</sup>) / 修士研究・修士副論文・修士制作(音楽研究科)

※ 国際交流研究科において、修了レポートを選択した者は pp.52～54を参照してください。

#### 1. 提出資格

下記の要件を満たした者に修士論文または修士研究・修士副論文(以下「修士論文等」という。)を提出する資格が認められます。

在学期間	博士前期課程・修士課程に1年以上在学すること。
修得単位数等	修士論文等を提出しようとする学期の前学期終了時までに、修了要件単位を20単位以上修得すること。

#### 2. 題目届の提出

修士論文等を提出しようとする者は、指導教授・指導の教員の承認を得たうえで、指定された提出期限までに所定の方法で提出しなければなりません。

詳細は、FerrisPassportでお知らせします。

なお、音楽芸術専攻生の「修士制作」選択者は、修士制作、修士副論文それぞれの題目届を提出しなければなりません。

→スケジュール、手続窓口はp.5

#### 3. 修士論文等の提出

提出方法	指定された提出期限までに所定の方法で本人が提出してください。郵送等による提出、機器のトラブルによる遅延提出は一切受理しません。詳細は、FerrisPassportでお知らせします。
代理人提出	病気、その他やむを得ない理由により本人が提出できない場合は、学部の追試験許可理由(「学生要覧」参照)に準じて代理人提出が認められることがあります。教務課の指示に従って提出してください。ただし、この場合も提出期限は厳守とします。
体裁	枚数や様式は各研究科の指示に従うこと。
注意	・提出された論文は返却しません。 ・論文等の作成要領に関しては、各研究科において別途定められています。詳細は、研究科の指示に従ってください。

→スケジュール、手続窓口はp.5

#### 4. 審査基準

各研究科の該当箇所を参照してください。(人文科学研究科 p.39、国際交流研究科 pp.52～53、音楽研究科 pp.67～68)

#### 最終試験

修士論文等を提出した者は、当該年度の1月下旬～2月中旬に最終試験を受けるものとします。詳細については各研究科の指示に従ってください。(人文科学研究科 p.40、国際交流研究科 p.54、音楽研究科 p.67)

#### 9月修了

##### (1) 9月修了希望届

本年度の9月修了を希望する者は、期日までに「9月修了希望届」(教務課備付)を提出してください。

→スケジュール、手続窓口はp.5

##### (2) 題目届の提出

上記「2. 題目届の提出」を参照

→スケジュール、手続窓口はp.5

##### (3) 修士論文等の提出

上記「3. 修士論文等の提出」を参照

→スケジュール、手続窓口はp.5

##### (4) 最終試験期間

2025年7月下旬～8月初旬

##### (5) 9月修了者発表・成績通知

2025年9月9日(火)

##### (6) 9月学位授与式

2025年9月24日(水)

## 博士後期課程（人文科学研究科・国際交流研究科）

### 修了要件・履修方法

各研究科の指示に従ってください。（人文科学研究科 pp.41～42、国際交流研究科 pp.57～58）

### 博士の学位申請のプロセス（本学の大学院博士課程在籍者）

博士の学位申請論文を提出しようとする者は、「学位申請論文提出資格確認願」一式を提出し、学位申請論文提出資格審査判定に合格しなければなりません。再入学して博士の学位申請論文を提出しようとする者も同様です。

3月 修了希望者	次年度9月 修了希望者	手続内容	
		在籍者	再入学者
6月	1月	学位申請論文提出資格確認願の提出	学位申請論文提出資格確認願 <sup>※</sup> の提出 ※ 再入学願を兼ねます。
7月	2月	資格審査委員会における資格審査	
9月	3月	学位申請論文提出資格審査判定	学位申請論文提出資格審査及び 再入学判定
判定合格者のみ ↓			
10月	4月		再入学
12月	6月	博士の学位申請論文提出	
1～2月	7～8月	最終試験及び審査委員会での審議	
3月	9月	研究科委員会での判定及び学長への報告・学位授与の決定	
		学位記の授与	
学位授与から1年以内		博士の学位申請論文公表	

→スケジュール、手続窓口はp.5

### 博士の学位申請論文

#### 1. 提出資格

下記の要件を満たした者は、博士後期課程修了予定年次に博士の学位申請論文を提出することができます。また、下記の要件を満たして退学した者も、再入学することにより博士の学位申請論文を提出することができます。

#### 2022年度以降入学者

在学期間	大学院に4年 <sup>*</sup> 以上在学すること。 ※ 修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者については、その2年を含む
修得単位数等	「博士論文指導」を含む修了要件単位を42単位以上修得すること（又は修得見込みであること）。
業績	研究科・専攻において定められた研究業績があること。（人文科学研究科 p.44）

#### 2021年度以前入学者

2021年度大学院要覧を参照してください。

2. 学位申請論文提出資格確認願の提出

博士の学位申請論文を提出しようとする者は、次のとおり書類等を提出のうえ予め審査を受け、学位申請論文提出資格を得る必要があります。学位申請論文提出資格を得た者は、資格を得た後1年以内に「博士の学位申請論文」（本論文）を提出しなければなりません。

名称	様式、部数等
学位申請論文提出資格確認願※	各研究科が定める様式 (人文科学研究科 p.43、国際交流研究科 p.60) 4部
履歴書	本学所定 4部
業績書	本学所定 4部

※ 再入学して博士の学位申請をしようとする者はこれが「再入学願」を兼ねる。

→スケジュール、手続窓口はp.5

3. 博士の学位申請論文（本論文）の提出

博士の学位申請論文を含め指定された期限に次の書類等を提出しなければなりません。

名称	様式、部数等
博士学位申請書	本学所定
博士の学位申請論文	1編4部 ※ 枚数や様式は各研究科の指示に従うこと (人文科学研究科 p.44、国際交流研究科 p.60)
論文要旨	4部
論文目録	本学所定 4部
履歴書・業績書	本学所定 4部

→スケジュール、手続窓口はp.5

【提出上の注意】

修士論文・修士研究・修士副論文の提出上の注意（p.24）と同様です。

4. 審査基準

各研究科の該当箇所を参照してください。（人文科学研究科 p.44、国際交流研究科 p.60）

最終試験

博士の学位申請論文を提出した者は、当該年度の所定期間（下表参照）に最終試験を受けるものとします。詳細については各研究科の指示に従ってください。

3月修了希望者	2026年1月～2月
9月修了希望者	2025年7月～8月

博士の学位申請論文の撤回

博士の学位申請論文の提出後、最終試験実施日から7日後まで、撤回を申し出ることができます。撤回の必要がある場合は、指導教授又は教務課に相談してください。

### 博士課程に在籍しない者の提出

本学の大学院博士課程に在籍しない者は、本学学位規則第13条（博士課程を経ない者の博士の学位申請論文の提出及び博士論文審査手数料）の規定するところにより博士の学位申請論文を提出することができます。

本学の大学院博士課程に在籍せず博士の学位申請論文を提出しようとする者は、事前に教務課に相談のうえ、博士学位申請論文及び関係書類を提出してください。

提出書類	本学の大学院博士課程在籍者に準ずる。
提出期限	本学の大学院博士課程在籍者の「学位申請論文提出資格確認願」の提出期限に準ずる。

### 審査手数料

博士の学位申請を行う者は、「大学院博士学士申請論文等の審査手数料に関する内規」に基づき、次のとおり審査手数料を納付する必要があります。

本学大学院博士課程在籍者	無料
本学大学院博士課程に在籍しない者	200,000円

- ※ 2016年度以前入学者のうち退学した者で博士の学位申請論文の提出を希望する者の審査手数料については、2016年度大学院要覧を参照してください。

## 教育・研究能力の開発・向上

### FD 活動

博士後期課程学生は、教育能力向上のためにファカルティ・ディベロップメント（FD）活動に参加する必要があります。

本学 FD 委員会や各研究科 FD 委員会からの指示に従って FD 活動に参加し、毎年度末の所定の期日までに「FD 活動報告書」（教務課備付）を提出しなければなりません。

→スケジュール、手続窓口はp.5

### TA（ティーチング・アシスタント）制度

TA（ティーチング・アシスタント）制度は、大学院の学生に教育・研究能力を高める機会を提供すること、及び学部教育効果を高めることを目的としています。概要は次のとおりです。

応募資格	本学修士課程、博士前期課程及び博士後期課程に在学する学生。詳細は各研究科が募集要項にて指示します。
担当業務	担当教員の指示に従い、学部専門科目の実習・演習・講義等において教育業務を補助すること。（学部学生の理解度促進のための指導や支援の経験ができます。）
募集時期	前期科目：2月、後期科目：6月 募集要項は、FerrisPassport に掲示します。
選考・採用	各専攻が指定する対象科目ごとに選考を経て採否が決定されます。
窓口	大学総務課 関心のある学生は、募集要項を確認のうえ、問い合わせてください。



# 人文科学研究科

博士前期課程

博士後期課程

## 人文科学研究科の人材養成目的

人文科学の領域に関する理論及び応用を教授研究し、優れた研究能力を持つ研究者、高度に専門的な見識と能力を備えた職業人、多様化する社会で他者と共生し、主体的に表現できる豊かな素養を身に付けた社会人を養成する。

## 英語英米文学専攻の人材養成目的

英米文学、英米文化、英米歴史・社会、英語学に関する高度な専門知識と研究方法を習得し、日本国内のみならず国際的な諸状況の解決にも主体的に貢献できる人材の養成を目的としている。

博士前期課程においては英語英米文学の領域における研究能力と高度な専門知識を要する職業に必要な能力を養い、博士後期課程においては研究者として独自の学問領域を開拓しうる能力又は高度に専門的な職業に従事しうる能力を養うことを目的とする。

## 日本語日本文学専攻の人材養成目的

世界の中の日本語学・日本文学という視野に立ち、日本語・日本文学・日本文化に関する高度な専門知識と研究方法・技法を習得し、その専門的見地から多様化する社会に、社会人・職業人として貢献できる高度の能力を養うことを目的としている。

博士前期課程においては日本語日本文学の領域における研究能力と高度な専門知識を要する職業に必要な能力を養い、博士後期課程においては研究者として独自の学問領域を開拓しうる能力又は高度に専門的な職業に従事しうる能力を養うことを目的とする。

## コミュニケーション学専攻の人材養成目的

多文化化する日本国内とポストコロニアル化する世界情勢を見据えながら、行政機関、NPO、メディア・情報などコミュニケーション関連分野の企業、研究機関などで、コーディネート、創造、取材・編集、研究、教育のできる専門人材を養成することを目的としている。

博士前期課程においてはコミュニケーション学の領域における研究能力と高度な専門知識を要する職業に必要な能力を養い、博士後期課程においては研究者として独自の学問領域を開拓しうる能力又は高度に専門的な職業に従事しうる能力を養うことを目的とする。

## ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

### 博士前期課程

#### 英語英米文学専攻

##### ◆ディプロマ・ポリシー

英語英米文学の領域における高度な専門知識と研究方法を修得し、多様化する社会に専門的見地から社会人・職業人として貢献できる証として、修士論文を提出し、かつ最終試験（口頭試問）に合格した者に対して「修士（文学）」の学位を授与する。

##### ◆カリキュラム・ポリシー

英米文学、英米文化、英米歴史・社会及び英語学など、英語英米文学の広範囲の領域に関する研究科目（コースワーク）及び演習科目（リサーチワーク）を適切に組み合わせたカリキュラムを設置する。少人数制の専門教育や修士論文指導をとおして高度な専門的知識や研究方法を修得し、社会人・職業人として社会に貢献できる高度な能力及びその基礎となる豊かな教養を養う。

#### 日本語日本文学専攻

##### ◆ディプロマ・ポリシー

日本語日本文学に関する体系的知識と高度な研究方法を身に付け、先行研究の蓄積をふまえ、明確な根拠と一貫した論理性を備えた、論旨の明快な修士論文を提出し、かつ最終試験（口頭試問）に合格した者に対して、「修士（文学）」の学位を授与する。

##### ◆カリキュラム・ポリシー

日本語日本文学各分野の広範囲の領域に関する研究科目（コースワーク）及び演習科目（リサーチワーク）を適切に組み合わせたカリキュラムを設置する。少人数制の専門教育や修士論文指導をとおして高度な専門的知識や研究方法を修得し、社会人・職業人として社会に貢献できる高度な能力及びその基礎となる豊かな教養を養う。

#### コミュニケーション学専攻

##### ◆ディプロマ・ポリシー

コミュニケーション学の領域における高度な専門知識と研究方法・技法を修得し、「社会」「心理」「文化」「言語」「ジェンダー」の専門領域を背景とし、多様化する社会にその専門的見地から社会人・職業人として貢献できる能力を持つ者で、修士論文を提出し、かつ最終試験（口頭試問）に合格した者に対して、「修士（文学）」の学位を授与する。

##### ◆カリキュラム・ポリシー

コミュニケーション学の領域において、多文化・共生コミュニケーションの視点に立脚し、「社会」「心理」「文化」「言語」「ジェンダー」の専門領域を背景とした研究科目（コースワーク）及び演習科目（リサーチワーク）を適切に組み合わせたカリキュラムを設置する。少人数制の専門教育や修士論文指導をとおして高度な専門的知識や研究方法を修得し、社会人・職業人として社会に貢献できる高度な能力及びその基礎となる豊かな教養を養う。

## 博士後期課程

## 英語英米文学専攻

## ◆ディプロマ・ポリシー

英語英米文学の領域において自立した研究者として必要とされる高度な専門知識と研究方法・技法を修得し、多様化する社会に専門的見地から職業人・研究者として貢献できる証として、独創的な見地で新たな研究領域を開拓した博士論文を提出し、かつ最終試験（口頭試問）に合格した者に対して「博士（文学）」の学位を授与する。

## ◆カリキュラム・ポリシー

英米文学、英米文化、英米歴史・社会及び英語学など、英語英米文学の広範囲の領域に関する研究科目（コースワーク）及び演習科目（リサーチワーク）を適切に組み合わせたカリキュラムを設置する。少人数制の専門教育や博士論文指導をとおして高度な専門的知識や研究方法を修得し、職業人・研究者として社会に貢献できる高度な能力及びその基礎となる豊かな教養を養う。

## 日本語日本文学専攻

## ◆ディプロマ・ポリシー

日本語日本文学に関する深い学識を身に付け、論証に必要な専門的情報を自主的に収集・処理し適切に立論された、独創的な発想で新たな研究領域を開拓した博士論文を提出し、かつ最終試験（口頭試問）に合格した者を、自立した研究者とみなして「博士（文学）」の学位を授与する。

## ◆カリキュラム・ポリシー

日本語日本文学各分野の広範囲の領域に関する研究科目（コースワーク）及び演習科目（リサーチワーク）を適切に組み合わせたカリキュラムを設置する。少人数制の専門教育や博士論文指導をとおして高度な専門的知識や研究方法を修得し、職業人・研究者として社会に貢献できる高度な能力及びその基礎となる豊かな教養を養う。

## コミュニケーション学専攻

## ◆ディプロマ・ポリシー

コミュニケーション学の領域において、自立した研究者として必要とされる高度な専門知識と研究方法・技法を修得し、「社会」「心理」「文化」「言語」「ジェンダー」の専門領域を背景とし、多様化する社会にその専門的見地から職業人・研究者として貢献できる能力を持つ者で、独創的な発想で新たな研究領域を開拓した博士論文を提出し、かつ最終試験（口頭試問）に合格した者に「博士（文学）」の学位を授与する。

## ◆カリキュラム・ポリシー

コミュニケーション学の領域において、多文化・共生コミュニケーションの視点に立脚し、「社会」「心理」「文化」「言語」「ジェンダー」の専門領域を背景とした研究科目（コースワーク）及び演習科目（リサーチワーク）を適切に組み合わせたカリキュラムを設置する。少人数制の専門教育や博士論文指導をとおして高度な専門的知識や研究方法を修得し、職業人・研究者として社会に貢献できる高度な能力及びその基礎となる豊かな教養を養う。

## カリキュラムの説明

### 人文科学研究科 英語英米文学専攻

英語英米文学専攻博士前期課程・後期課程では、英米文学、英米文化、英米歴史・社会、英語学に関する高度な専門知識と研究方法を習得し、日本国内のみならず国際的な諸状況の解決にも主体的に貢献できる人間の育成を目的としている。

英語英米文学専攻が教育目標としてきたのは、キリスト教精神に基づき、女性の立場に立ち、国際的な視野をもった人材の養成である。こうした見地に立ち、博士前期課程では英語圏文学・文化のテキスト精読といった基礎的研究をもとに、英米文学理論、児童文学研究、第二言語習得理論など多岐にわたる関連諸学を設置している。

博士前期課程では、具体的には選択必修Ⅰ（コースワーク：研究科目）及び選択必修Ⅱ（リサーチワーク：演習科目）に英語圏（イギリスおよびアメリカ）の文学、文化、歴史・社会及び英語学といった広範囲にわたる科目を設置している。また、これらに加え、選択必修Ⅱ（リサーチワーク）には修士論文執筆のために「英語論文演習」を設置している。

選択必修Ⅲでは、修士論文指導の科目を設け、修士論文執筆のための道筋を作っている。

博士後期課程では、博士前期課程の学びをさらに発展させ、博士前期課程と同様の分野に選択必修Ⅰ（コースワーク：研究科目）及び選択必修Ⅱ（リサーチワーク：演習科目）を設置、選択必修Ⅲでは博士論文作成のための指導時間を設けている。

### 人文科学研究科 日本語日本文学専攻

日本語日本文学専攻博士前期課程・後期課程では、世界の中の日本語学・日本文学という視野に立ち、日本語・日本文学・日本文化に関する高度な専門知識と研究方法・技法を習得し、その専門的見地から多様化する社会に、社会人・職業人として貢献できる高度の能力を養うことを目的としている。

とりわけ、本学の人材養成目的の重要な根幹を成すキリスト教、ジェンダー、多文化理解の視点を背景として、博士前期課程においては、古典籍の翻刻・注釈、文献資料の精読といった基礎的研究をもとに、文学理論、フェミニズム文芸批評、歴史研究、美術・宗教等の文化研究等、多岐にわたる関連諸学を学び、修士論文を作成するためのカリキュラムを策定している。

具体的には、博士前期課程においては、選択必修Ⅰにコースワークとして日本文化研究を始めとして、上代・中古・中世・近世・近現代・日本語学・日本語教育学の各分野における研究科目を設置している。また選択必修Ⅱにリサーチワークとして、上代・中古・中世・近世・近現代・日本語学各分野における演習科目を設置している。また選択必修Ⅲとしては、修士論文指導という論文指導の時間を設け、修士論文完成までの道筋を作っている。

博士後期課程においては、前期課程での学びをさらに発展させる形で、選択必修Ⅰにコースワークとして古代文学特別研究、中近世文学特別研究、近世文化特別研究、近代文学特別研究、日本語学特別研究、日本語教育学特別研究という科目を設置、選択必修Ⅱにリサーチワークとして古代文学特別演習、中近世文学特別演習、近世文化特別演習、近代文学特別演習、日本語学特別演習、日本語教育学特別演習という科目を設置し、選択必修Ⅲに博士論文作成のための指導の時間を設置している。

## 人文科学研究科 コミュニケーション学専攻

コミュニケーション学専攻博士前期課程・後期課程では、多文化化する日本国内とポストコロナル化する世界情勢を見据えながら、行政機関、NPO、メディア・情報などコミュニケーション関連分野の企業、研究機関などで、コーディネート、創造、取材・編集、研究、教育のできる専門の人材を養成することを目的としている。そのため、人間の存在、社会関係、ジェンダー、心理、言語、文化、情報メディアなど幅広い分野について、次の4つのコア領域を足場に、論理的・実証的な研究を行う。

- ① 心理コミュニケーション分野  
対人コミュニケーション、異文化コミュニケーション等に関する調査研究
- ② 社会コミュニケーション分野  
情報、教育、マイノリティー問題、多文化社会、現代思想等に関する調査研究
- ③ 言語コミュニケーション分野  
方言学、音声学、社会言語等に関する調査研究
- ④ 文化コミュニケーション分野  
身体、メディア文化、ジェンダー、表象文化等に関する調査研究

博士前期課程では、選択必修Ⅰ（コア科目）において各分野の研究科目を配当し、選択必修Ⅱ（コア科目）で各分野の演習科目が配当されている。選択必修Ⅲとしては修士論文指導が設置されており、修士論文完成までの道筋をつくっている。さらに、社会科学的な調査・研究方法の習得を重視するため、実習科目の「リサーチメソッド」が設置されている。学部において社会調査士の資格を取得している者は、リサーチメソッドの履修により専門社会調査士の資格を得ることができる。また、隣接分野科目として、北米の歴史や文化（社会・文化領域）、英語学や日本語学（言語分野）等の研究科目・演習科目を配置し、コア科目の発展・応用研究を可能にしている。

博士後期課程では、選択必修Ⅰにおいて各分野の特別研究科目が配当され、選択必修Ⅱにおいて各分野の特別演習科目が配当され、選択必修Ⅲで博士論文作成のための指導が行われる。

## 人文科学研究科 共通科目

各専攻の選択科目として、「アジアの文化とジェンダー」、「ヨーロッパ現代思想」、「キリスト教の現代的課題」の3科目を設置し、本学の人材養成目的の地盤を固めている。

修了要件

本課程を修了するには、下記の(1)、(2)全てを満たす必要があります。

- (1) 在学期間  
2年以上在学すること。
- (2) 修得単位数等
- ① 「修士論文指導」を含む所定の授業科目を30単位以上修得すること。
  - ② 修士の学位申請論文（以下「修士論文」という。）の審査及び最終試験に合格すること。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りることとします（p.23参照）。

必修単位数については次のとおり定めます。

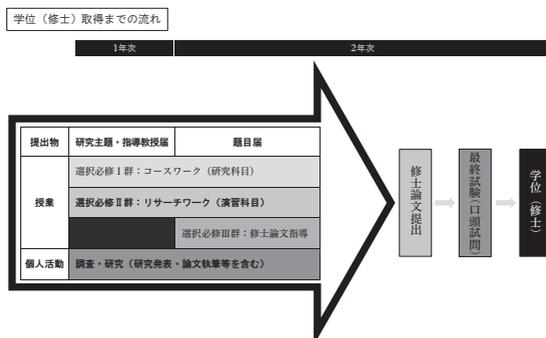
科目区分	単位数	備考
選択必修Ⅰ群	4単位	
選択必修Ⅱ群	8単位	
選択必修Ⅲ群「修士論文指導」	4単位	
その他	14単位	上記以外の所属専攻専門科目及び上記区分ごとの必要数以上に修得した科目の単位
合計	30単位	

## 履修方法

### 各専攻所定の授業科目の履修方法

指導教授による指導のもと、次のとおり選択必修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ群及び選択科目から履修し、修士論文を提出します。開講科目の詳細は pp.72～80「開講科目表」を確認してください。

各学期の履修科目については、指導教授の承認を得て履修登録を行ってください。



※ 科目担当者が同じ選択必修Ⅰ群：コースワーク（研究科目）と選択必修Ⅱ群（演習科目）の科目は、原則、隔年で開講します。

### 他専攻、他研究科、学部の授業科目の履修

p.18を参照してください。

### 同一授業科目の重複履修

#### (1) 同一担当者の重複履修

同一担当者による同一授業科目を、年度を代えて重複履修し、その修得単位を修了に必要な単位とすることを希望する場合は、指導教授の承認を得た後、各自で履修登録を行ってください。

#### (2) 担当者が異なる場合の重複履修

同一授業科目で、年度によって担当者が異なる場合は、重複履修して修得した単位を修了に必要な単位とすることができます。

### 「修士論文指導」の履修

#### (1) 履修時期及び必修単位数

修了予定年度の前期と後期に、指導教授担当の「修士論文指導」をそれぞれ2単位ずつ履修してください。

休学・留学等により、このとおりに履修できない場合は、教務責任者（p.100）の指示を受けてください。

#### (2) 修了要件への算入

修了要件に算入できるのは、4単位までです。

## 指導教授・研究主題

各専攻の「修士論文指導」担当者が指導教授となります。  
指導教授は、修士論文の作成等に対する指導（研究指導）を行います。

### (1) 手続

入学期の履修登録時に、指導教授の承認を得た上で、「研究主題・指導教授等届」（教務課備付）によって、①指導教授及び②研究主題を届け出なければなりません。

→スケジュール、手続窓口はp.5

### (2) 研究主題・指導教授の変更

特別な事由により、研究主題・指導教授の変更を希望する者は、「研究主題・指導教授等届（変更）」（教務課備付）により、教務課に願い出なければなりません。研究科委員会の議を経て、認められることがあります。

### (3) 研究指導の教員

研究主題により、指導教授とは別に研究指導の教員を定めることがあります。

## 指導教授一覧

### 英語英米文学専攻

英語圏の文学・文化	小 泉 泉
	冨 樫 剛
	向 井 秀 忠
英語圏の歴史・社会	由 井 哲 哉
	梅 崎 透
	中 川 正 紀
英語学	大 畑 甲 太
	饒平名 尚 子

### 日本語日本文学専攻

日本上代文学	松 田 浩
日本中古文学	井 内 健 太
日本近世文学	吉 田 弥 生
日本近現代文学	島 村 輝
日本語学	勝 田 耕 起
和漢比較文学	宋 略

### コミュニケーション学専攻

心理コミュニケーション	臨床心理学	大 上 真 礼
	文化心理学	潮 村 公 弘
	認知社会心理学	
社会コミュニケーション	ジェンダー教育学	井 上 恵 美 子
	国際社会学	小ヶ谷 千 穂
	国際移動論	
言語コミュニケーション	社会学	澤 田 佳 世
	ジェンダー論	高 田 明 典
	メディア論 現代思想	
文化コミュニケーション	方言学	齋 藤 孝 滋
	社会言語学	
	音声学	
文化コミュニケーション	キリスト教神学	相 澤 一
	レトリック	藤 巻 光 浩
	表象文化論	
	批評理論	
	舞踊学	高 橋 京 子
スポーツ人類学		

## 修士論文

## 提出資格

p.24を参照してください。

## 「修士論文題目届」の提出

p.24を参照してください。

## 「修士論文」の提出

## (1) 提出方法

p.24を参照してください。

## (2) 様式

## 【修士論文の枚数】

英語英米文学専攻	指導教授の指示による
日本語日本文学専攻	A4サイズ1200字詰 40枚以上
コミュニケーション学専攻	指導教授の指示による

## 学位論文審査基準（修士論文）

## 審査基準

- (1) 研究課題が明確かつ適切であること。
- (2) 精深な学識に基づき、先行研究を十分おさえ、論証に必要な情報収集が適切に行われていること。
- (3) 研究方法、つまり作品・資史料・データの解釈・分析・立論が適切に、一貫性をもって行われていること。
- (4) 論旨が明快かつ矛盾なく展開され、設定した課題に対する結論が明確に示されていること。
- (5) 文章表現が適切であり、目次・章立て・注記・図表などの論文体裁が整っていること。
- (6) 上記の基準を満たした上で、それぞれの達成度によって成績評価が行われる。

## 審査体制

- (1) 審査委員は、主査1名、副査2名以上とする。
- (2) 審査委員による最終試験を課す。
- (3) 審査の結果は、人文科学研究科委員会において審議し、修士の学位を授与することの可否を議決する。

## 最終試験

実施期間については p.25を参照してください。その他については次のとおりです。

- (1) 最終試験は、筆記又は口頭によって行います。
- (2) 最終試験の方法等は、各専攻が定めます。

## 専門社会調査士資格認定

社会調査士資格を有する者で、コミュニケーション学専攻において「リサーチメソッド1」（調査計画演習）、「リサーチメソッド2」（多変量解析演習）、「リサーチメソッド3」（質的調査法演習）の単位を修得し、社会調査士資格認定機構に申請した場合、専門社会調査士の資格が認定されます。専門社会調査士の資格取得に関心がある人は、専攻からの掲示等に注意するようにしてください。専門社会調査士資格の詳細に関しては、一般社団法人 社会調査協会の Web サイト (<https://jasr.or.jp>) で見ることができます。

## 修了要件

本課程を修了するには、下記の(1)、(2)全てを満たす必要があります。

- (1) 在学期間  
大学院に5年以上<sup>\*1</sup>在学すること。  
※1 修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者については、その2年を含む。
- (2) 修得単位数等  
①「博士論文指導」を含む所定の授業科目を42単位<sup>\*2</sup>以上修得すること。  
②博士の学位申請論文の審査及び最終試験に合格すること。  
※2 修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者が、その課程と同種の専攻の博士後期課程に入学した場合は、その専攻の授業科目のうち30単位をすでに修得したものとみなします。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に3年（修士課程又は博士前期課程における在学期間を含む。）以上在学すれば足りることとします（p.23参照）。

また、必修単位数については次のとおり定めます。

### 2022年度以降入学者

科目区分	必修単位数
選択必修Ⅰ群	4単位
選択必修Ⅱ群	4単位
選択必修Ⅲ群 「博士論文指導」	4単位
合計	12単位

### 2021年度以前入学者

2021年度大学院要覧を参照してください。

## 履修方法

### 各専攻所定の授業科目の履修方法

選択必修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ群から履修することとします。詳細は開講科目表の履修方法欄を参照してください。各学期の履修科目については、履修登録までに指導教授の承認を得てください。

## 前期課程等の授業科目の履修

前期課程等の授業科目を履修する場合は、当該科目を所管する研究科等の承認が得られた科目に限り、履修が認められます。詳しくは、p.18の「他専攻、他研究科、学部授業科目の履修」を参照してください。  
なお、この場合、修了に必要な単位としては認められません。

## 「博士論文指導」の履修

### (1) 履修時期

履修登録は、原則として修了予定年度（3年次）の前期に行い、前期→後期の順に履修してください。  
休学・留学等により、このとおりに履修できない場合は、年度を超えて履修することが認められます。  
該当者は、教務責任者（p.100）の指示を受けてください。

後期・前期派遣の特別聴講学生が年度を超えて履修する場合は、前期に履修登録してください。

### (2) 履修上の注意

「博士論文指導」の重複履修はできません。

指導教授担当の「博士論文指導」を履修することとします。

## 指導教授・研究主題

指導教授は、博士の学位申請論文の作成等に対する指導（研究指導）を行います。

入学学期に①指導教授及び②研究主題を定めます。

### (1) 研究主題・指導教授の届出

指導教授の承認を得た上で、「研究主題・指導教授等届（変更）」（教務課備付）により、指導教授名及び研究主題を届け出なければなりません。

→スケジュール、手続窓口はp.5

### (2) 研究主題・指導教授の変更

特別な事由により、研究主題・指導教授の変更を希望する者は、「研究主題・指導教授等届（変更）」（教務課備付）により、教務課に願い出なければなりません。研究科委員会の議を経て、認められることがあります。

### (3) 研究指導の教員

研究主題により、指導教授とは別に研究指導の教員（指導教員）を定めることがあります。

## 指導教授一覧

### 英語英米文学専攻

英語圏の文学	富 樫 剛 向 井 秀 忠 由 井 哲 哉
英語圏の歴史・社会	梅 崎 透
英語学	大 畑 甲 太 饒平名 尚 子

### 日本語日本文学専攻

日本上代文学	松 田 浩
日本近世文学	吉 田 弥 生
日本近現代文学	島 村 輝
日本語学	勝 田 耕 起

### コミュニケーション学専攻

心理コミュニケーション	文化心理学 認知社会心理学	潮 村 公 弘
社会コミュニケーション	国際社会学 国際移動論	小ヶ谷 千 穂
	社会学 ジェンダー論	澤 田 佳 世
	メディア論 現代思想	高 田 明 典
	レトリック 表象文化論 批評理論	藤 卷 光 浩
言語コミュニケーション	方言学 社会言語学 音声学	齋 藤 孝 滋

## 研究計画・研究報告

毎年度、年度初めの所定の期日までに「研究計画書」（教務課備付）を提出しなければなりません。  
また、年度末の所定の期日までに「研究報告書」を提出しなければなりません。

(1) 「研究計画書」の提出

→スケジュール、手続窓口はp.5

(2) 「研究報告書」の提出

書式は各専攻が指定します。なお、学術雑誌などに発表した論文の抜刷を、研究報告書に代えることができます。

→スケジュール、手続窓口はp.5

## 博士の学位申請論文

### 提出資格

p.26を参照してください。

### 提出の手続

p.26を参照してください。

### 「博士の学位申請論文」の提出

(1) 「学位申請論文提出資格確認願」の提出

p.27を参照してください。

【学位申請論文提出資格確認願における研究科が定める様式書類】

	英語英米文学専攻	日本語日本文学専攻	コミュニケーション学専攻
書類	博士学位申請論文計画書	博士学位申請論文草稿	博士学位申請論文計画書
内容	(1) 題目 (2) 目的と方法 (3) 先行研究の概要 (4) これまでの研究成果の要約及び予想される知見 (5) 博士学位申請論文の構成(各章のタイトル)及び各章の記載内容の計画	(1) 博士学位申請論文草稿 (2) 論文要旨	(1) 題目 (2) 目的と方法 (3) 先行研究の概要 (4) これまでの研究成果の要約及び予想される知見 (5) 博士学位申請論文の構成(各章のタイトル)及び各章の記載内容の計画
分量	和文6,000～8,000字以内、 英文4,000語以内	現状の本論文に準ずる 和文 A4サイズ1,200字詰70枚以上	和文10,000字以上

(2) 「博士の学位申請論文」（本論文）の提出

p.27を参照してください。

【博士の学位申請論文の枚数】

英語英米文学専攻	和文	400字詰	300枚以上
	英文	A4サイズ ダブルスペース	150枚以上
日本語日文学専攻	和文	A4サイズ 1200字詰	70枚以上
コミュニケーション学専攻	和文	指導教授の指示による	

※ 作成様式等詳細については、別に定めます。

【各専攻における提出要件】

各専攻において下記のとおり博士の学位申請論文として提出するための要件が定められています。

英語英米文学専攻	専攻の指示による
日本語日文学専攻	博士の学位申請論文を提出する前に、専攻の認める日本学術会議協力学術研究団体に登録されている学会等の、査読を有する機関誌において、当該分野における研究論文が1本以上掲載されていることが必要です。
コミュニケーション学専攻	専攻の認める、査読を有する機関誌において、当該分野における研究論文が1本以上掲載されていることが必要です。

学位論文審査基準（博士論文）

審査基準

- (1) 研究課題が明確かつ適切で、さらに独創性があること。
- (2) 先行研究を十分おさえ、論証に必要な情報収集が適切に、かつ自主的に行われていること。
- (3) 研究方法、つまり作品・資史料・データの解釈・分析・立論が適切に、一貫性をもって行われていること。
- (4) 論旨が明快かつ矛盾なく展開され、設定した課題に対する結論が明確に示され、その結論が独創的であること。
- (5) 文章表現が適切であり、目次・章立て・注記・図表などの論文体裁が整っていること。
- (6) 上記の基準を満たした上で、当該学問分野において研究を進展させる学問的価値があること。また、豊かな学識を有し、自立して研究活動を行うことができ、専門的な業務に従事するのに必要な能力を示すものであること。

審査体制

- (1) 審査委員は、主査1名、副査2名以上とする。なお、副査のうち、1名は学外者とする。
- (2) 審査委員による最終試験（口頭試問）を課す。
- (3) 審査の結果は、人文科学研究科委員会において審議し、博士の学位を授与することの可否を議決する。

最終試験

p.27を参照してください。

# 国際交流研究科

博士前期課程

博士後期課程

## 国際交流研究科の人材養成目的

国際交流の領域に関する理論及び応用を教授研究し、優れた研究能力を持つ研究者、高度に専門的な見識と能力を備えた職業人、グローバル化の時代にふさわしい、専門分野の枠を越えた総合的知識を身に付けた社会人を養成する。

## 国際交流専攻の人材養成目的

国際交流の領域に関する理論および応用を教授研究し、博士前期課程においては優れた研究能力と高度な専門知識を備えた国際社会に貢献しうる社会人を養成し、博士後期課程においては自立した研究者として必要とされる高度な研究能力と独創性を持つ研究者、卓越した専門的な見識と考察力を備えた職業人、グローバル化の時代にふさわしい、専門分野の枠を超えた総合的知識を身に付け、国際社会の課題解決に貢献できる社会人を養成する。

## ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

### 博士前期課程

#### ◆ディプロマ・ポリシー

国際交流の領域における高度な専門的見識・能力と、グローバル化の時代にふさわしい、専門分野の枠を越えた総合的知識を身に付け、国際社会のさまざまな場面で社会人・職業人として独創性・創造性ならびに優れた判断力を発揮できる者に「修士（国際交流）」の学位を授与する。

#### ◆カリキュラム・ポリシー

国際交流の領域に関する理論及び応用を教授する「グローバル化研究」「グローバル化と地域社会」「グローバル化と日本」の3研究群を置き、各自のテーマに即して選択する研究群の科目（コースワーク）により研究を進めさせる。さらに、文献や資料、現実の体験や理解によって研究を裏付ける「グローバル化研究演習」、「文献講読」、「言語演習」、「国際交流実務研修」などの演習科目（リサーチワーク）を置き、研究をより確実なものとする。また、修士論文指導や修了レポート指導をととして高度な専門的知識や研究方法を修得させる。選択した研究群以外の他の2研究群にも目を配り、専門分野の枠を越えた総合的知識を獲得させ、社会人・職業人として必要な国際社会に関わる専門的見識と高い教養を養う。

### 博士後期課程

#### ◆ディプロマ・ポリシー

国際交流の領域において、自立した研究者として必要とされる高度な専門的見識・能力と、グローバル化の時代にふさわしい、専門分野の枠を越えた総合的知識・考察力を身に付け、国際社会のさまざまな場面で職業人・研究者として独創性・創造性ならびに優れた判断力を発揮できる者に「博士（国際交流）」の学位を授与する。

#### ◆カリキュラム・ポリシー

国際交流の領域に関する高度な理論及び応用を教授する「グローバル化研究」「グローバル化と地域社会」「グローバル化と日本」の3研究群を置き、各自のテーマに即して選択する研究群の科目（コースワーク）により研究を進めさせる。さらに、現実の体験や理解によって研究を裏付けるための演習科目（リサーチワーク）「グローバル化研究特別演習」、「国際交流実務研修」を置く。また、博士論文指導をととして高度な専門的知識や研究方法を修得させる。専門知と実践知を媒介し、専門分野の枠を越えた総合的知識・考察力を獲得させ、職業人・研究者として必要な国際社会に関わる高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養う。

## カリキュラムの説明

### 国際交流研究科 国際交流専攻

昨今の世界の変化、とりわけグローバル化は歴史の巨大な変化と共に進展し始め、今やそこには多くの難題が立ち現れるに至った。階層間、地域間、民族間などでの格差の拡大や、地球規模での環境破壊など。しかしそれらは直ちに均質な世界が成立することを意味しない。現状をとらえるためには、グローバル化に組み込まれつつある世界の各地域についての観察も必要である。私たちが生活の本拠をおく日本社会もまたそのような地域の一つである。それゆえ現代日本が直面する諸問題にも取り組まなければならない。

以上のような考えから、本研究科のカリキュラムはグローバル化に関わる3つの科目群から構成される。

第1群「グローバル化研究」では現代社会、国際関係、社会運動の関係において理論的分析力の涵養をはかる。

第2群「グローバル化と地域社会」では世界の各地域社会、各地域文化との関係においてローカル・ノリッジの獲得に力を置く。

第3群「グローバル化と日本」では日本と諸外国の関係において、身近な日本を対象として国際的な関連の中にある社会諸現象の具体的な理解を促進する。

院生は一つの群に軸足を置きつつ、他の2群にも目を配り、全体を大きく見渡すことが求められる。また各群にキリスト教関連科目がおかれていることは、全体を統一する視点に、本学の建学の精神が位置づけられていることを表している。

世界が進みつつある新しい状況の中で適切に対処するためには、社会諸科学の知と具体的生活体験の接触と交流によって、新しい学問的知見を求めていかなければならない。すなわち職業生活や社会生活を体験している者はそこで遭遇した諸問題を諸科学と、諸科学をいわば座学として学んできた者はそれらを実社会の現実の問題と、積極的に対比し、ぶつけ合うことによってこそ、新たな地平が拓かれるのである。そのような知と実践の相互刺激をめざし、本研究科では社会人を積極的に受け容れ、研究者との切磋琢磨をはかっている。またジェンダー関連科目を必修にした上で、男女共学制を実施している。

本研究科博士前期課程においては、国際交流に関わる領域で、専門的な見識と高い教養を備えた職業人の養成を図る。たとえばいくつかの専門性にまたがる実践応用分野で、現地のフィールド調査を行い、現地の住民に何が大切であるかを判断できる人材である。

研究を文献や資料に裏付けられた確実なものにするために、「文献講読」、「言語演習」などの科目がおかれている。また研究を現実の体験や理解によって裏付けるためには「国際交流実務研修」があり、海外の様々な団体・機関などで行った活動を単位認定対象としている。

博士後期課程においても、2021年度から、開設する科目を第1群「グローバル化研究」、第2群「グローバル化と地域社会」、第3群「グローバル化と日本」の3つの群に振り分けることとし、博士前期課程との接続を明確にする。

本研究科博士後期課程では、みずからの設定した研究テーマについて高度に専門的な理解を深めることを目的とする。そのために「特別研究」及び指導教授の「グローバル化研究特別演習」を履修し、毎年度始めに研究計画書を、毎年度末に研究報告書を作成することが求められる。「学位申請論文」を提出するためには、まず「学位申請論文草稿」と「論文要旨」の提出が義務づけられる。これにより総合的かつ学際的視点と独創性を備えた研究を実現させることをめざす。

後期課程を修了した者は、専門知と実践知を媒介し、従来の専門諸分野の越境とそれによる新たな総合を特徴とする研究者あるいは職業人となることが期待される。

群	科目名
第1群 グローバリゼーション研究	グローバル化と現代社会特別研究
	グローバル化と国際関係特別研究
	グローバル化と社会運動特別研究
第2群 グローバリゼーションと地域社会	グローバル化と地域社会特別研究
	グローバル化と地域文化特別研究
第3群 グローバリゼーションと日本	グローバル化の中の日本特別研究
	グローバル化と日本の社会問題特別研究

## 国際交流研究科 博士前期課程

### 修了要件

本課程を修了するには、下記の(1)、(2)を満たす必要があります。

- (1) 在学期間  
2年以上在学すること。長期履修学生は4年以上在学すること。
- (2) 修得単位数等
- ① 「修士論文指導」または「修了レポート指導」を含む所定の授業科目を30単位以上修得すること。
  - ② 修士の学位申請論文（以下「修士論文」という。）または特定の課題についての研究の成果（「修了レポート」2編）の審査及び最終試験に合格すること。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りることとします（p.23参照）。（長期履修学生を除く。）

必修単位数については次のとおり定めます。

また、指導教授を変更した場合、変更前に修得した単位もグローバルゼーション研究演習に該当することとします。

2022年度以降入学者

「修士論文」選択者

	科目区分	単位数	備考
①	指導教授が担当する「研究総論」	2単位	
②	「ジェンダー」関連科目から	2単位	
③	指導教授の「グローバルゼーション研究演習」	4単位	
④	指導教授が担当する「修士論文指導」	4単位	
—	その他	18単位	上記以外の国際交流専攻専門科目及び上記区分ごとの必要数以上に修得した科目の単位
合計		30単位	

「修了レポート」選択者

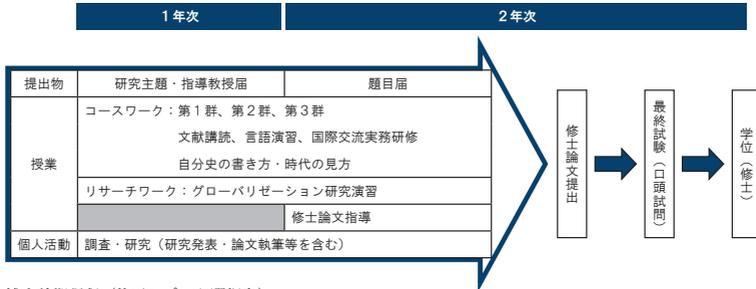
	科目区分	単位数	備考
①	指導教授が担当する「研究総論」	2単位	
②	「ジェンダー」関連科目から	2単位	
③	指導教授が担当する「修了レポート指導」	4単位	
④	「自分史の書き方・時代の見方」	2単位	
⑤	指導教授の「グローバルゼーション研究演習」	2単位	
—	その他	18単位	上記以外の国際交流専攻専門科目及び上記区分ごとの必要数以上に修得した科目の単位
合計		30単位	

## 履修方法

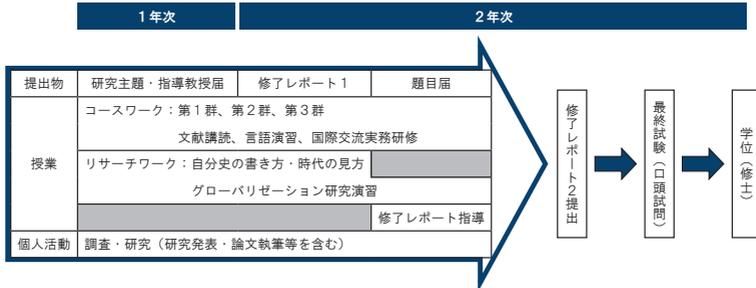
各学期の履修科目については、指導教授の承認を得て履修登録を行ってください。

### 履修の流れ

博士前期課程（修士論文選択者）



博士前期課程（修了レポート選択者）



本課程では、指導教授による指導のもと次のとおり修士論文提出までのスケジュールを定めており、毎学期研究発表会での発表が義務付けられています。

2年間の研究発表スケジュール及び論文を提出するまでの標準的な流れ

スケジュール		研究会での達成目標	
研究計画 構想を立てる	1年次前期	4月	「研究主題・指導教授届」提出
		7月	研究発表1 研究計画書 自分のテーマと研究プランを発表
先行研究 中間報告	1年次後期	12月	研究発表2 先行研究の整理と問題点の指摘 基礎的研究・調査報告
	2年次前期	7月	研究発表3 執筆状況に関する中間報告 研究要旨の発表
決定稿	2年次後期	11月	「修士論文題目届」提出 研究発表4 提出に向け最終発表
		1月	「修士論文」提出
最終試験		2月	『「グローバル」掲載要旨原稿』提出 「口述試験の要旨」提出

・発表会は、学内関係者（学部学生、大学院生、教職員）の聴講を認めています。

## 開講予定

一部の科目を除き、2年に1回開講する形式をとっているため、別表「2024・2025年度開講予定表」(pp.55～56)を参照して、2年間のプランをたてて履修してください。

## 他専攻、他研究科、学部の授業科目の履修

p.18を参照してください。

また、長期履修学生が他専攻、他研究科、学部の授業科目を履修する場合は、p.18の記載に拘わらず年間4単位を上限とします。

## 同一授業科目の重複履修

### (1) 同一担当者の重複履修

同一担当者による同一授業科目を、年度を代えて重複履修し、その修得単位を修了に必要な単位とすることを希望する場合は、指導教授の承認を得た後、各自で履修登録してください。

### (2) 担当者が異なる場合の重複履修

同一授業科目で、年度によって担当者が異なる場合は、重複履修して修得した単位を修了に必要な単位とすることができます。

## 「修士論文指導」「修了レポート指導」※の履修

### (1) 履修時期及び必修単位数

修了予定年度の前期と後期に、指導教授担当の「修士論文指導」(修了レポート選択者は「修了レポート指導」)をそれぞれ2単位ずつ履修してください。

休学・留学等により、このとおりに履修できない場合は、教務責任者(p.100)の指示を受けてください。

### (2) 修了要件への算入

修了要件に算入できるのは、4単位のみです。

※ 「修了レポート」を選択できるのは、社会人(大学院入学時点で大学卒業後3年の社会的経験を経た者)のみとします。

## その他履修上の注意

長期履修学生が履修登録できる単位数は年間8単位を超えないものとします。

## 指導教授・研究主題

「修士論文指導」又は「修了レポート指導」担当者が指導教授となります。  
指導教授は、修士論文又は修了レポートの作成等に対する指導（研究指導）を行います。

## (1) 手続き

入学学期の履修登録時に、指導教授の承認を得た上で、「研究主題・指導教授等届」（教務課備付）によって、①指導教授、②研究主題、③「修士論文」コースまたは「修了レポート」コースの別を届け出なければなりません。

→スケジュール、手続窓口はp.5

## (2) 研究主題・指導教授等の変更

特別な事由により、研究主題・指導教授の変更を希望する者は、「研究主題・指導教授等届（変更）」（教務課備付）により、教務課に願い出なければなりません。研究科委員会の議を経て、認められることがあります。

## (3) 研究指導の教員

研究主題により、指導教授とは別に研究指導の教員を定めることがあります。

## 指導教授一覧

第1群 グローバル ゼーション 研究	荒井 真
	杉之原 真子
	高雄 綾子
	高柳 彰夫
	古内 洋平
	ベンヤミンD, ミドルトン 山本 千晶

第2群 グローバル ゼーション と地域社会	上原 かおり
	上原 良子
	袁 媛
	遠藤 健太
	金 香男
	空 由佳子
	知足 章宏
	矢野 久美子

第3群 グローバル ゼーション と日本	泉谷 陽子
	齊藤 直輝
	佐藤 輝
	新城 道彦
	ヒガ, マルセーロ

## 修士論文

## 提出資格

p.24を参照してください。

## 「修士論文題目届」の提出

p.24を参照してください。

## 「修士論文」の提出

## (1) 提出方法

p.24を参照してください。

(2) 様式

次の基準に従って作成してください。

	様式等
書式	A4サイズ 40字×30行

学位論文審査基準（修士論文）

審査基準

- (1) 研究課題が明確かつ適切であること。
- (2) 精深な学識に基づき、先行研究を十分おさえ、論証に必要な情報収集が適切に行われていること。
- (3) 研究方法、つまり作品・資史料・データの解釈・分析・立論が適切に、一貫性をもって行われていること。
- (4) 論旨が明快かつ矛盾なく展開され、設定した課題に対する結論が明確に示されていること。
- (5) 文章表現が適切であり、目次・章立て・注記・図表などの論文体裁が整っていること。
- (6) 上記の基準を満たした上で、それぞれの達成度によって成績評価が行われる。

審査体制

- (1) 審査委員は、主査1名、副査2名以上とする。
- (2) 審査委員による最終試験（口頭試問）を課す。
- (3) 審査の結果は、国際交流研究科委員会において審議し、修士の学位を授与することの可否を議決する。

修了レポート

修了レポート選択者は、次の2編のレポートを提出するものとします。

名称	内容等
修了レポート1（経験と時代）	自己の社会体験（職業、家庭、社会、地域、外国等）を整理し、それを時代、社会の中に位置付けて考察するものです。
修了レポート2（テーマ研究）	通常の論文形式にのっとり、自分で設定したテーマについてまとめます。

提出資格

修了レポート1（経験と時代）	「自分史の書き方・時代の見方」を履修中もしくは履修済であること。
修了レポート2（テーマ研究）	以下の3つの条件を全て満たしていること。 ① 本課程に1年以上（長期履修学生については3年以上）在学していること。 ② 提出しようとする学期の前学期終了時まで、修了要件単位を20単位以上修得していること。 ③ 「修了レポート1」の審査に合格していること。

## 「修了レポート題目届」の提出

「修了レポート2」を提出しようとする者は、所定の期日までに、指導教授の承認印を得たうえで、修了レポート題目届を提出しなければなりません。提出方法は修士論文に準じるものとします。詳細は p.24 を参照してください。

→スケジュール、手続窓口はp.5

なお、「修了レポート1」については提出不要です。

## 「修了レポート」の提出

## (1) 様式

「修了レポート1」及び「修了レポート2」のいずれも次の基準に従って作成してください。

	様式等
書式	A4サイズ 40字×30行

## (2) 提出方法

修了レポート1	原則として、「自分史の書き方・時代の見方」の履修学期末（9月、3月）に提出してください。ただし、提出が間に合わない場合には、次学期以降の学期末に提出することもできます。なお、修了予定学期に提出することはできません。
	→スケジュール、手続窓口はp.5
修了レポート2	提出方法は修士論文に準じるものとします。詳細は p.24を参照してください。
	→スケジュール、手続窓口はp.5

## 審査基準（修了レポート1）

- (1) 修了レポート1の課題である、自身の経験の整理、及びその時代・社会の中への位置付けが適切に行われていること。
- (2) 守秘義務・プライバシーなどにつき、十分な配慮がなされていること。
- (3) 論旨が明快かつ矛盾なく展開されていること。
- (4) 文章表現が適切であり、目次・章立て・注記・図表など、レポートとしての体裁が整っていること。
- (5) 上記の基準を満たした上で、それぞれの達成度によって成績評価が行われる。

## 審査基準（修了レポート2）

- (1) 研究課題が明確かつ適切であること。
- (2) 先行研究への目配り、論証に必要な情報収集が適切に行われていること。
- (3) 研究方法、つまり作品・資料・データの解釈・分析・立論が適切に、一貫性をもって行われていること。
- (4) 論旨が明快かつ矛盾なく展開され、設定した課題に対する結論が明確に示されていること。
- (5) 文章表現が適切であり、目次・章立て・注記・図表など、レポートとしての体裁が整っていること。
- (6) 上記の基準を満たした上で、それぞれの達成度によって成績評価が行われる。

## 審査体制

「修了レポート1」及び「修了レポート2」のいずれも、審査は主査1名及び副査1名以上により行われます。主査・副査は、国際交流研究科の研究科委員会において選任します。

## 最終試験

実施期間についてはp.25を参照してください。その他については次のとおりです。

### 1. 修士論文提出者

- (1) 最終試験は口述試験とし、論文審査の主査・副査がこれに当たります。
- (2) 試験を受ける者は、修士論文の要旨（4,000字程度）1部を、定められた期日までに提出してください。詳細は、国際交流学部共同研究室から連絡します。

### 2. 修了レポート2（テーマ研究）提出者

「修了レポート2（テーマ研究）」を提出した者は、当該年度の所定期間に最終試験を受けるものとします。最終試験は口述試験とし、レポート審査の主査・副査がこれに当たります。

## 「国際交流実務研修」

在学期間中に内外の国際機関、政府機関、公共機関、非政府組織（NGO / NPO）、企業等で活動し、その活動によって得た知見が、本研究科の教育・研究内容にふさわしいものであると認定された場合、その知見に対し単位を与える科目です。詳細は、シラバスを参照してください。

科目名称（単位数）	「国際交流実務研修」（2単位）
開講期	前期・後期
活動対象	① 3ヶ月以上、90時間以上であること。 ② 社会人院生が勤務先の職務に関して行う活動は対象としない。 ③ 有給（勤務・嘱託・アルバイト）は対象としない。

2025・2026年度開講予定表

種 別	授業科目名	履修年次	単位	担 当 者	2025		2026		備考		
					前	後	前	後			
第1群 グローバリゼーション研究	グローバリゼーション研究総論	12	2	(未定)					☆		
	シオンと現代社会	現代社会論	12	2	B.Middleton			○			
		比較憲法論	12	2	(未定)					☆	
		法秩序と現代社会	12	2	荒井真	○		○			
		情報技術と現代社会	12	2	(未定)					☆	
		ジェンダー論	12	2	山本千晶	○		○			
	国際関係	国際政治論	12	2	古内洋平		○		○		
		国際機構論	12	2	高柳彰夫			○			
		国際人権論	12	2	(未定)					☆	
		国際平和論	12	2	(未定)					☆	
		国際政治経済論	12	2	杉之原真子	○		○			
		開発経済論	12	2	高柳彰夫	○					
		シオンと社会運動	地球環境論	12	2	佐藤輝		○			
			環境と持続可能性	12	2	高雄綾子	○		○		
	市民運動・NGO・NPO		12	2	(未定)					☆	
	国際スポーツ論		12	2	(未定)					☆	
	文明間対話の可能性		12	2	(未定)					☆	
	キリスト教の現代的課題	12	2	(未定)					☆		
地域社会研究総論	12	2	(未定)					☆			
第2群 グローバリゼーションと地域社会	地域社会	ヨーロッパ地域社会研究	12	2	上原良子	○		○			
		北アメリカ歴史・社会研究1A	12	2	梅崎透			○			
		北アメリカ歴史・社会研究2A	12	2	中川正紀	○					
		ラテンアメリカ地域社会研究	12	2	ヒガ, マルセーロ				○		
		アジア地域社会研究	12	2	袁 媛		○		○		
		南アジア地域社会研究	12	2	(未定)					☆	
		ヨーロッパ社会とキリスト教	12	2	(未定)					☆	
		開発と地域社会	12	2	知足章宏		○		○		
		家族と地域社会	12	2	金香男		○				
		地域文化	ヨーロッパ文化論	12	2	空由佳子		○		○	
	ラテンアメリカ文化論		12	2	遠藤健太		○		○		
	アジア文化論		12	2	上原かおり	○		○			
	ヨーロッパ現代思想		12	2	矢野久美子	○		○			
	ヨーロッパの文化表象		12	2	(未定)					☆	
	ヨーロッパの文化とジェンダー	12	2	(未定)					☆		
アジアの文化とジェンダー	12	2	(未定)					☆			
第3群 グローバリゼーションと日本	日本近現代史研究総論	12	2	(未定)					☆		
	シオンの中の日本	日本歴史文化論	12	2	(未定)					☆	
		日中関係の歴史と現在	12	2	泉谷陽子		○		○		
		日朝関係の歴史と現在	12	2	新城道彦	○		○			
		欧米の社会科学と日本の社会科学	12	2	B.Middleton		○				
		日本の近代と横浜	12	2	(未定)					☆	
	グローバル化と日本の社会問題	世界の中の日本国憲法	12	2	(未定)					☆	
		日本社会とジェンダー	12	2	(未定)					☆	
		日本社会と移民	12	2	ヒガ, マルセーロ		○				
		日本の環境問題	12	2	佐藤輝				○		
		キリスト教と日本社会	12	2	(未定)					☆	
		日本経済の歴史と現在	12	2	齊藤直	○		○			

【備考欄】 ☆：2026年度以降担当者未定

種 別	授業科目名	履修年次	単位	担 当 者	2025		2026		備考
					前	後	前	後	
	文献講読	12	2	(未定)					☆
		12	2	(未定)					☆
		12	2	(未定)					☆
	言語演習	12	2	(未定)					☆
		12	2	(未定)					☆
		12	2	(未定)					☆
	国際交流特殊研究	12	2	非常勤教員					☆
		12	2	非常勤教員					☆
		12	2	非常勤教員					☆
	国際交流実務研修	12	2	上原良子	○	○	○	○	
	自分史の書き方・時代の見方	12	2	(未定)					☆
	グローバルイゼーション研究演習	12	2	山本千晶			○	○	☆
		12	2	(未定)					☆
		12	2	(未定)					☆
		12	2	(未定)					☆
		12	2	(未定)					☆
		12	2	(未定)					☆
12		2	(未定)					☆	
12		2	(未定)					☆	
修士論文指導 修了レポート指導	12	2	古内洋平	○	○	○	○		
	12	2	高柳彰夫	○	○	○	○		
	12	2	ヒガ, マルセーロ	○	○	○	○		
	12	2	上原良子	○	○	○	○		
	12	2	荒井真	○	○	○	○		
	12	2	齊藤直	○	○	○	○		
	12	2	矢野久美子	○	○	○	○		
	12	2	佐藤輝	○	○	○	○		
	12	2	B.Middleton	○	○	○	○		
	12	2	金香男	○	○	○	○		
	12	2	高雄綾子	○	○	○	○		
	12	2	泉谷陽子	○	○	○	○		
	12	2	新城道彦	○	○	○	○		
	12	2	杉之原真子	○	○	○	○		
	12	2	知足章宏	○	○	○	○		
	12	2	上原かおり	○	○	○	○		
	12	2	山本千晶	○	○	○	○		
12	2	遠藤健太	○	○	○	○			
12	2	袁 媛	○	○	○	○			
12	2	空由佳子	○	○	○	○			

【備考欄】：☆=2026年度以降担当者未定

修了要件

本課程を修了するには、下記の(1)、(2)全てを満たす必要があります。

- (1) 在学期間  
 大学院に5年以上<sup>※1</sup>在学すること。  
 ※1 修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者については、その2年を含む。
- (2) 修得単位数等  
 ① 「博士論文指導」を含む所定の授業科目を42単位<sup>※2</sup>以上修得すること。  
 ② 博士の学位申請論文の審査及び最終試験に合格すること。  
 ※2 修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者が、当該課程と同種の専攻の博士後期課程に入学した場合は、その専攻の授業科目のうち30単位をすでに修得したものとみなします。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に3年（修士課程又は博士前期課程における在学期間を含む。）以上在学すれば足りることとします（p.23参照）。

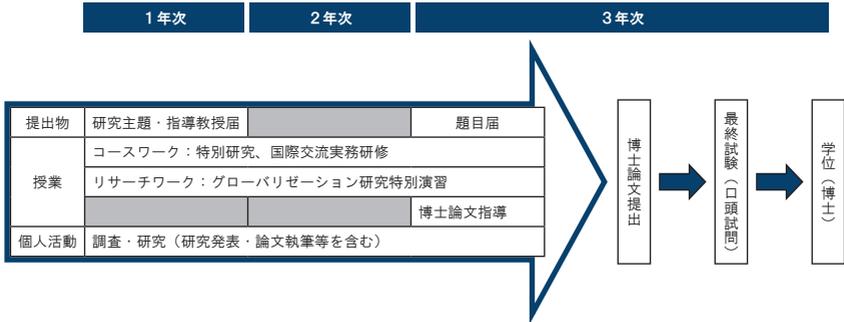
また、(2)については次のとおり定めます。

2022年度以降入学者

科目区分	必修単位数	備考
「特別研究」科目	4単位	履修する群と科目は指導教授の指示を受けてください。
指導教授の「グローバルゼーション研究特別演習」	4単位	
指導教授又は指導教員が担当する「博士論文指導」	4単位	
合計	12単位	

## 履修方法

博士後期課程



### 所定の授業科目の履修方法

「特別研究」、「特別演習」、「国際交流実務研修」及び「博士論文指導」から履修することとします。詳細は開講科目表の履修方法欄を参照してください。

各学期の履修科目については、履修登録までに指導教授の承認を得てください。

### 前期課程等の授業科目の履修

前期課程等の授業科目を履修する場合は、当該科目を所管する研究科等の承認が得られた科目に限り、履修が認められます。詳しくは、p.18の「他専攻、他研究科、学部」の授業科目の履修」を参照してください。なお、この場合、修了に必要な単位としては認められません。

### 「博士論文指導」の履修

#### (1) 履修時期

履修登録は、原則として修了予定年度（3年次）の前期に行い、前期→後期の順に履修してください。休学・留学等により、このとおりに履修できない場合は、年度を超えて履修することが認められます。該当者は、教務責任者（p.100）の指示を受けてください。

後期・前期受入の特別聴講学生が年度を超えて履修する場合は、前期に履修登録してください。

#### (2) 履修上の注意

「博士論文指導」の重複履修はできません。

指導教授担当の「博士論文指導」を履修することとします。

## 指導教授・研究主題

指導教授は、博士の学位申請論文の作成等に対する指導（研究指導）を行います。  
入学学期に指導教授及び研究主題を定めます。

## (1) 研究主題・指導教授の届出

指導教授の承認を得た上で、「研究主題・指導教授等届」（教務課備付）により、指導教授名及び研究主題を届け出なければなりません。

→スケジュール、手続窓口はp.5

## (2) 研究主題・指導教授の変更

特別な事由により、研究主題・指導教授の変更を希望する者は、「研究主題・指導教授等届（変更）」（教務課備付）により、教務課に願出しなければなりません。研究科委員会の議を経て、認められることがあります。

## (3) 研究指導の教員

研究主題により、指導教授とは別に研究指導の教員（指導教員）を定めることがあります。

## 指導教授一覧

第1群 グローバル ゼーション 研究	荒井 真
	杉之原 真子
	高柳 彰夫
	古内 洋平

第2群 グローバル ゼーション と地域社会	上原 良子
	金 香 男
	矢野 久美子

第3群 グローバル ゼーション と日本	齊藤 直
	佐藤 輝
	ヒガ, マルセーロ

## 研究計画・研究報告

毎年度、年度初めの所定の期日までに「研究計画書」（教務課備付）を提出しなければなりません。  
また、年度末の所定の期日までに「研究報告書」を提出しなければなりません。

## (1) 「研究計画書」の提出

→スケジュール、手続窓口はp.5

## (2) 「研究報告書」の提出

書式は研究科が指定します。なお、学術雑誌などに発表した論文の抜刷を、研究報告書に代えることができます。

→スケジュール、手続窓口はp.5

## 博士の学位申請論文

## 提出資格

p.26を参照してください。

## 提出の手続

p.26を参照してください。

## 「博士の学位申請論文」の提出

- (1) 「学位申請論文提出資格確認願」の提出  
p.27を参照してください。

### 【学位申請論文提出資格確認願における研究科が定める様式書類】

書類	博士学位申請論文草稿
内容	(1) 博士学位申請論文草稿 (2) 論文要旨
分量	博士の学位申請論文（本論文）に準ずる

- (2) 「博士の学位申請論文」（本論文）の提出  
p.27を参照してください。

### 【博士の学位申請論文の分量】

和文	12万字以上
英文	6万語以上
その他の言語	上記に準ずる分量

※ 作成様式等詳細については、別に定めます。

## 学位論文審査基準（博士論文）

### 審査基準

- (1) 研究課題が明確かつ適切で、さらに独創性があること。
- (2) 先行研究を十分おさえ、論証に必要な情報収集が適切に、かつ自主的に行われていること。
- (3) 研究方法、つまり作品・資史料・データの解釈・分析・立論が適切に、一貫性をもって行われていること。
- (4) 論旨が明快かつ矛盾なく展開され、設定した課題に対する結論が明確に示され、その結論が独創的であること。
- (5) 文章表現が適切であり、目次・章立て・注記・図表などの論文体裁が整っていること。
- (6) 上記の基準を満たした上で、当該学問分野において、研究を進展させる学問的価値があること、豊かな学識を有し、自立して研究活動を行うことができ、専門的な業務に従事するに必要な能力を示すものであること。

### 審査体制

- (1) 審査委員は、主査1名、副査2名以上とする。なお、副査のうち、1名は学外者とする。
- (2) 審査委員による最終試験（口頭試問）を課す。
- (3) 審査の結果は、国際交流研究科委員会において審議し、博士の学位を授与することの可否を議決する。

## 最終試験

p.27を参照してください。

# 音楽研究科

## 修士課程

### 音楽研究科の人材養成目的

音楽の領域に関する理論及び実践を教授研究し、高度に専門的な知識・能力・技術を持ち、かつ音楽界を多様に支える素養を兼ね備えた職業人を養成する。

### 音楽芸術専攻の人材養成目的

音楽芸術専攻では音楽の領域に関する理論と実践を通し、高度な知識を背景とした研究能力を身につけ、音楽を専門とする今日的な職業に携わる人材を養成することを目的とする。

## ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

### 修士課程

#### 音楽芸術専攻

##### ◆ディプロマ・ポリシー

音楽文化の領域における高度な専門知識と研究方法を修得し、社会のニーズにあった音楽活動をするのみならず、芸術に理解ある社会の創造に社会人・職業人として貢献できる能力をもつ者に「修士（音楽）」の学位を授与する。

##### ◆カリキュラム・ポリシー

音楽文化の広範囲の領域に関する研究科目（コースワーク）及び演習科目（リサーチワーク）を適切に組み合わせたカリキュラムを設置する。少人数制の専門教育や修士論文指導をととして高度な専門的知識や専門技術、研究方法を修得し、社会との接点を持つ実践的な科目及び専攻分野を横断する学際的な科目を置くことにより、現代社会で活動するために必要となる高度な実践的能力を養う。また、より専門性の高い知識や理論、高度な表現技術を身に付けることができるように、選択科目として、少人数の専門研究科目及び個人レッスンやアンサンブル科目を置く。

## カリキュラムの説明

### 音楽研究科 音楽芸術専攻

音楽芸術専攻では多様な音楽の作曲や制作、理論や歴史、教育や環境、文化や社会、ビジネスやデザインに関する研究をとおし、今日的な職業に携わる人材を養成する事を目的としている。

そのため作曲、音楽文化、応用音楽学、音楽コミュニケーション、音楽情報論、音楽人間環境科学、音楽教育、先端メディアなどの科目を設置している。具体的には、専任教員それぞれの専門性においてクラシックからポピュラー音楽までの幅広い作曲技法とオーケストレーションの基礎の習得、コンピュータを用いた音楽・映像・メディアアート作品などの制作、現代社会の音環境が抱える問題を解き明かし、より良いものにするための音響学や音環境デザインの研究、ポピュラー音楽の理論や歴史の研究、音楽学の基本概念の修得や学術的思考、それにふさわしい発想や文章の構築、ピアノ伴奏や室内楽の共演の楽曲レパートリー研究と演奏技術及び表現力の向上をめざす共演芸術研究、舞台作品を題材に発声法・ピアノ伴奏・指揮法などの習得を通しての舞台制作研究、先端技術を用いた音楽教育の研究、音楽ビジネスやマーケティングの研究など、多様な音楽に関する講義・演習が体系的に構成している。これらによって学生は広範な知識と好奇心、論理的思考を学び、音楽研究の諸領域を追求し、さらに専任教員の指導のもと修士研究を行い、研究成果の発信を通して社会に貢献することが期待される。

## 音楽研究科 修士課程

### 修了要件

本課程を修了するには、下記の(1)、(2)全てを満たす必要があります。

- (1) 在学期間  
2年以上在学すること。
- (2) 修得単位数等
  - ① 「修士研究指導」を含む所定の授業科目を30単位以上修得すること。
  - ② 修士研究（修士制作及び修士副論文、又は修士論文）を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りることとします（p.23参照）。

必修単位数については次のとおり定めます。

### 音楽芸術専攻

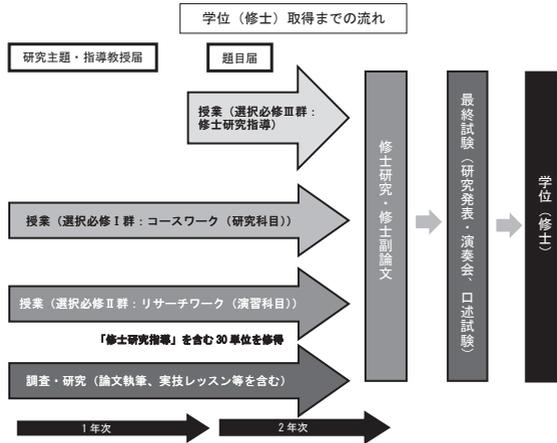
科目区分	単位数	備考
選択必修Ⅰ群	4単位	
選択必修Ⅱ群	4単位	
選択必修Ⅲ群 「修士研究指導」	4単位	
その他	18単位	上記以外の音楽芸術専攻専門科目、他専攻の開放科目及び上記区分ごとの必要数以上に修得した科目の単位 ※ 「実技レッスンA,B」「特別実技レッスンA,B」の修了要件算入は、あわせて6単位を上限とする。
合計	30単位	

## 履修方法

### 各専攻所定の授業科目の履修方法

指導教授による指導のもと、次のとおり選択必修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ群から履修し、修士研究または修士副論文を提出し、最終試験（修士学位審査研究発表及び口述試験）を受けます。開講科目の詳細は pp.85～86「開講科目表」を確認してください。

各学期の履修科目については、指導教授の承認を得て履修登録を行ってください。



※ 科目担当者が同じ選択必修Ⅰ群：コースワーク（研究科目）と選択必修Ⅱ群（演習科目）の科目は、原則、隔年で開講します。

### 他専攻、他研究科、学部の授業科目の履修

p.18を参照してください。

### 同一授業科目の重複履修

- (1) 同一担当者による同一授業科目（レッスン科目を除く）  
年度を変えて重複履修することを希望する者は、指導教授の承認を得た後、所定用紙（教務課、山手事務室備付）により開講学期の履修登録期間最終日までに教務課に届け出るものとします。
- (2) 担当者が異なる場合の重複履修  
同一授業科目で、年度によって担当者が異なる場合は、重複履修することができます。
- (3) 修了要件への算入  
上記（1）、（2）の場合、修了要件としては認められません。

## 「修士研究指導」の履修

### (1) 履修時期及び必修単位数

修了予定年度の前期と後期に、指導教授担当の「修士研究指導」をそれぞれ2単位ずつ履修登録してください。

休学・留学等により、このとおりに履修できない場合は、教務責任者 (p.100) の指示を受けてください。

### (2) 修了要件への算入

修了要件に算入できるのは、4単位までです。

## 選択 PA 科目

選択 PA (Performing Arts) 科目は、カリキュラムの選択必修 I 群、選択必修 II 群、選択必修 III 群における教育を補完するレッスン科目です。個人レッスン、グループ実技、ミュージック・テクノロジー・ラボなど、院生個々のニーズに応じて自由に受講する事ができ、クラシック音楽、デジタル音楽、ICT や AI などの最先端の技術を応用した音楽等、それぞれのジャンルの組み合わせによる幅広く多彩な学びが可能です。高度な専門技術、知識修得を通じて多岐に渡る音楽文化領域への視野、思考を専門的に学びます。

科目名	実技レッスン A, B	特別実技レッスン A, B
時間数	週45分×15回	週15分×15回
単 位	各3単位	各1単位
実技料	1学期1科目につき150,000円	1学期1科目につき50,000円
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要手続科目 ・他専攻への開放科目 ・重複履修可能</li> <li>・音楽芸術専攻では6単位まで修了要件に算入可</li> <li>・24単位の上限を超えて PA 科目の履修を希望する場合、専攻主任の承認が必要</li> </ul>	

### 開講楽器等及び担当予定者

楽器等 <sup>※</sup>	担 当 予 定 者
声楽	土屋次郎、星野聡、西由起子、宮部小牧、山村尚子、増田弥生
ピアノ	落合敦、黒川浩、新井啓泰、北原葉子、小林周子、前田美由紀、松浦健、末松茂敏、清水将仁
オルガン・クラヴィコード・チェンバロ	宇内千晴 (Or)、三浦はつみ (Or)
管楽器	井出朋子 (Fl)
弦楽器	中村静香 (Vn、Va)、渡部基一 (Vn)、藤村俊介 (Vc)、渡部玄一 (Vc)
背景研究・論文作成	谷口昭弘
作編曲	大田桜子
DTMとメディア・アート	瀬藤康嗣、中西宣人

※ 年度により、休講となる楽器等がある場合があります。

## 指導教授・研究主題

各専攻の「修士研究指導」担当者が指導教授となります。

指導教授は、修士研究（修士制作及び修士副論文、又は修士論文）に関する指導を行います。

### (1) 手続

入学学期の履修登録時に、指導教授の承認を得たうえで、「研究主題・指導教授等届」（教務課、山手事務室備付）によって、①指導教授及び②研究主題を教務課に届け出なければなりません。

→スケジュール、手続窓口はp.5

### (2) 研究主題・指導教授の変更

特別な事由により、研究主題・指導教授の変更を希望する者は、「研究主題・指導教授等届（変更）」（教務課、山手事務室備付）により、教務課に願い出なければなりません。研究科委員会の議を経て、認められることがあります。

### (3) 研究指導の教員

研究主題により、指導教授とは別に研究指導の教員を定めることがあります。

## 指導教授一覧

	指導教授	研究指導の教員
音楽文化系	武井 涼子	瀬藤 康嗣
	谷口 昭弘	中西 宣人
音楽表現系	星野 聡	落合 敦
	土屋 広次郎	黒川 浩
		大田 桜子

## 修士研究・修士副論文

### 提出資格

p.24を参照してください。

### 「修士研究・修士副論文題目届」の提出

p.24を参照してください。

### 「修士研究・修士副論文」の提出

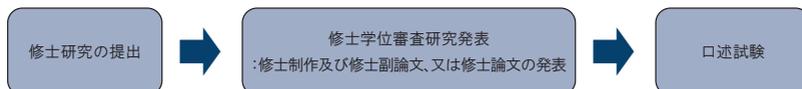
p.24を参照してください。

## 修士学位審査研究発表、最終試験

### (1) 最終試験までの流れ

#### 音楽芸術専攻

修士研究を提出した者は、当該年度の所定期間に、最終試験を受けるものとします。最終試験は、研究発表及び口述試験によって行います。



#### 【日程】

修士学位審査研究発表・演奏会	2026年2月2日（月）～2月4日（水）
口述試験	2026年2月上旬～中旬（詳細は専攻の指示による）

#### 【9月修了者の日程】

2024年9月修了を希望する者の「修士学位審査研究発表」は、学部の前期 PA 発表会期間中に実施します。

修士学位審査研究発表・演奏会	2025年7月下旬～8月初旬（詳細は専攻の指示による）
口述試験	2025年7月下旬～8月初旬（詳細は専攻の指示による）

### (2) 欠席・遅刻の扱い

修士学位審査研究発表当日に欠席又は遅刻した場合の扱いは、学部の追試験の規定に準じます。発表演奏日は別に設けます。

#### 学位論文審査基準（修士論文、修士副論文、修士制作）

音楽芸術専攻では修士研究として修士制作及び修士副論文、又は修士論文のいずれかを選択し提出したうえで修士学位審査研究発表を行います。学位申請者から提出された修士論文又は修士副論文は、主査1名、副査2名により審査を行います。審査基準は以下のとおりです。

#### <審査基準>

##### 1. 修士論文（音楽芸術専攻）

- (1) 研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。
- (2) 先行研究についての十分な知見を有し、必要なデータや資料の収集が適切に行われていること。
- (3) 研究の目的を達成するための方法が、適切性・主体性・説得力を有していること。
- (4) 論旨が一貫しており、明確かつオリジナルな結論が提示されていること。
- (5) 論理に飛躍がなく着実に結論に結びつくよう展開されていること。
- (6) 文章が学術論文にふさわしい確かな表現力と体裁が整っていること。
- (7) 研究を発展させるに足る知見と、将来活躍する能力と学識が認められること。
- (8) 研究全般について、適切な倫理的配慮や各種倫理基準を遵守していること。

## 2. 修士副論文（音楽芸術専攻）

- (1) 研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。
- (2) 十分な知見を有し、必要なデータや資料の収集が適切に行われていること。
- (3) 研究の目的を達成するための方法が、適切性・主体性・説得力を有していること。
- (4) 論旨が一貫しており、明確かつオリジナルな結論が提示されていること。
- (5) 論理に飛躍がなく着実に結論に結びつくよう展開されていること。
- (6) 適切な文章表現と全体的なまとまりがあること。
- (7) 研究を発展させるに足る知見と、将来活躍する能力と学識が認められること。
- (8) 研究全般について、適切な倫理的配慮や各種倫理基準を遵守していること。

## 3. 修士制作（音楽芸術専攻）

作品、演奏、企画制作等による表現形態をとり、以下のすべて、又はいずれかを含むこととする。

- (1) 独創性及び独自性を追求し、作品、演奏、または企画制作として具現化している。
- (2) 高度な技法を用い、高い芸術性を有する。
- (3) 社会的意義を有する。

### <審査体制>

- (1) 審査委員は、主査1名、副査2名以上とする。
- (2) 審査委員による最終試験（修士学位研究発表及び口述試験）を課す。
- (3) 審査の結果は、音楽研究科委員会において審議し、修士の学位を授与することの可否を議決する。

# 大学院開講科目表

この情報は、2025年2月28日現在の情報をもとに作成しています。  
最新情報は、Web シラバスで確認してください。



## 開講科目表の見方

### 備考

履修上の注意点を以下のとおり表しています。各科目の備考の詳細は、シラバスで確認してください。

要手続	説明会出席など別途手続が必要
通年	通年科目
集中	集中講義科目
休講	当該年度休講科目
ジェンダー	ジェンダー関連科目

英語英米文学専攻（博士前期課程）

種別	授業コード	科目名	講義題目	単位前後	推奨履修年次	備考	履修方法
選択必修Ⅰ	91010	イギリス文学研究 1 A	初期近代イギリス研究：一次資料を使う	2	12	休講	I群から 4単位以上を修得
	91020	イギリス文学研究 1 B	初期近代イギリス研究：一次資料を使う	2	12		
	91030	イギリス文学研究 2 A		2	12		
	91040	イギリス文学研究 2 B		2	12		
	91050	イギリス文学研究 3 A	イギリス・エリザベス朝演劇研究 A	2	12		
	91060	イギリス文学研究 3 B	イギリス・エリザベス朝演劇研究 B	2	12		
	99010	イギリス文学研究 4 A		2	12		
	99020	イギリス文学研究 4 B		2	12		
	91070	イギリス文化研究 1 A		2	12		
	91080	イギリス文化研究 1 B		2	12		
	91090	イギリス文化研究 2 A		2	12		
	91100	イギリス文化研究 2 B		2	12		
	91110	イギリス文化研究 3 A		2	12		
	91120	イギリス文化研究 3 B		2	12		
	99030	イギリス歴史・社会研究 A		2	12		
	99040	イギリス歴史・社会研究 B		2	12	休講	
	91150	アメリカ文学研究 1 A		2	12		
	91160	アメリカ文学研究 1 B		2	12		
	91170	アメリカ文学研究 2 A		2	12		
	91180	アメリカ文学研究 2 B		2	12		
	91190	アメリカ文化研究 1 A		2	12		
	91200	アメリカ文化研究 1 B		2	12		
	91210	アメリカ文化研究 2 A		2	12		
	91220	アメリカ文化研究 2 B		2	12		
	99050	北アメリカ歴史・社会研究 1 A		2	12		
	99060	北アメリカ歴史・社会研究 1 B		2	12		
	99070	北アメリカ歴史・社会研究 2 A	多民族・多文化のアメリカを考える A	2	12		
	99080	北アメリカ歴史・社会研究 2 B	多民族・多文化のアメリカを考える B	2	12		
	91290	英語学研究 1 A	第二言語習得研究1 効果的な英語学習・教育への示唆	2	12		
	91300	英語学研究 1 B	第二言語習得研究2 効果的な英語学習・教育への示唆	2	12		
	91310	英語学研究 2 A		2	12		
	91320	英語学研究 2 B		2	12		
	91330	英語学研究 3 A		2	12		
91340	英語学研究 3 B		2	12	休講		
選択必修Ⅱ	91370	イギリス文学演習 1 A		2	12	休講	II群から 8単位以上を修得
	91380	イギリス文学演習 1 B		2	12		
	91390	イギリス文学演習 2 A	イギリスの社会と探偵小説(シャーロック・ホームズ)	2	12		
	91400	イギリス文学演習 2 B	イギリスの社会と探偵小説(アガサ・クリスティほか)	2	12		
	99090	イギリス文学演習 3 A		2	12		
	99100	イギリス文学演習 3 B		2	12		
	99110	イギリス文学演習 4 A		2	12		
	99120	イギリス文学演習 4 B		2	12		
	91410	イギリス文化演習 1 A		2	12		
	91420	イギリス文化演習 1 B		2	12		
	91430	イギリス文化演習 2 A		2	12		
	91440	イギリス文化演習 2 B		2	12		
	99130	イギリス文化演習 3 A		2	12		
	99140	イギリス文化演習 3 B		2	12		
	99150	イギリス歴史・社会演習 A		2	12		
	99160	イギリス歴史・社会演習 B		2	12		
	99170	アメリカ文学演習 1 A	Toni Morrisonの作品を味わう(1)	2	12		
	99180	アメリカ文学演習 1 B	Toni Morrisonの作品を味わう(2)	2	12		
	99190	アメリカ文学演習 2 A		2	12		
	99200	アメリカ文学演習 2 B		2	12	休講	
99210	アメリカ文化演習 1 A	アメリカ映画研究(1)	2	12			
99220	アメリカ文化演習 1 B	アメリカ映画研究(2)	2	12			
99230	アメリカ文化演習 2 A		2	12	休講		

英語英米文学専攻（博士前期課程）

種別	授業コード	科目名	講義題目	単位		推奨履修年次	備考	履修方法
				前	後			
選択必修Ⅱ	99240	アメリカ文化演習 2 B		2	12	休講	Ⅱ群から 8単位以上を修得	
	99250	北アメリカ歴史・社会演習 1 A	アメリカ史学史概論	2	12			
	99260	北アメリカ歴史・社会演習 1 B	アメリカ史学史概論B	2	12			
	99270	北アメリカ歴史・社会演習 2 A		2	12			
	99280	北アメリカ歴史・社会演習 2 B		2	12			
	91550	英語学演習 1 A		2	12	休講		
	91560	英語学演習 1 B		2	12			
	91570	英語学演習 2 A	Discourse approach for cross-cultural communication	2	12			
	91580	英語学演習 2 B	Discourse approachと異文化コミュニケーション	2	12			
	99290	英語学演習 3 A		2	12			
	99300	英語学演習 3 B		2	12			
	99310	英語論文演習 1 A		2	12			
	99320	英語論文演習 1 B		2	12	休講		
	99330	英語論文演習 2 A		2	12			
99340	英語論文演習 2 B		2	12				
選択	89840	アジアの文化とジェンダー		2	12			
	89850	ヨーロッパ現代思想	非暴力への思考	2	12			
	89860	キリスト教の現代的課題		2	12			
選択必修Ⅲ	91730	修士論文指導	修士論文指導	2	2	休講	4単位を修得	
	91740			2	2			
	91731			2	2			
	91741			2	2			
	91732			2	2			
	91742			2	2			
	91733			2	2			
	91743			2	2			
	91734			2	2			
	91744			2	2			
	91750			2	2			
	91751			2	2			
	91735			2	2	休講		
	91745			2	2			
	91736			2	2			
	91746			2	2			
	91737			2	2	休講		
91747	2	2						
91738	2	2						
91748	2	2						
91739	2	2						
91749	2	2						

日本語日本文学専攻（博士前期課程）

種別	授業コード	科目名	講義題目	単位前後	推奨履修年次	備考	履修方法
選択必修Ⅰ	93010	日本文化研究 A		2	12	休講	I群から 4単位以上を修得
	93020	日本文化研究 B		2	12		
	93030	上代文学研究 A	『古事記』『日本書紀』を読む	2	12		
	93040	上代文学研究 B	『古事記』『日本書紀』を読み解く (景行紀以降を中心に)	2	12		
	93050	中古文学研究 A	中古文学研究 A	2	12		
	93060	中古文学研究 B	中古文学研究 B	2	12		
	93070	古代文化研究 A		2	12	休講	
	93080	古代文化研究 B		2	12		
	93090	中世文学研究 A		2	12		
	93100	中世文学研究 B		2	12		
	93110	近世文学研究 A		2	12	休講	
	93120	近世文学研究 B		2	12		
	93150	近代文学研究 1 A		2	12		
	93160	近代文学研究 1 B		2	12		
	93170	近代文学研究 2 A	日本近現代文学研究のパラダイム A	2	12	休講	
	93180	近代文学研究 2 B	近現代文学研究のパラダイム B	2	12		
	93190	近現代文学研究 A		2	12		
	93200	近現代文学研究 B		2	12		
	93210	近代文化研究 A		2	12	休講	
	93220	近代文化研究 B		2	12		
	93230	歴史日本語学研究 A		2	12		
	93240	歴史日本語学研究 B		2	12		
	93250	現代日本語学研究 A		2	12	休講	
	93260	現代日本語学研究 B		2	12		
	93770	日本語教育学研究 A	質的な日本語教育研究 (1)	2	12		
	93780	日本語教育学研究 B	質的な日本語教育研究 (2)	2	12		
	93270	言語教育学研究 A		2	12	休講	
	93280	言語教育学研究 B		2	12		
	93290	日本語日本文学研究 A		2	12		
	93300	日本語日本文学研究 B		2	12		
	93310	漢文学研究 A		2	12	休講	
	93320	漢文学研究 B		2	12		
	93330	日中比較文化研究 A		2	12		
93340	日中比較文化研究 B		2	12			
93350	文献研究 A		2	12	休講		
93360	文献研究 B		2	12			
93370	上代文学演習 A	『拾遺和歌集』を読むⅠ	2	12			
93380	上代文学演習 B	『拾遺和歌集』を読むⅡ	2	12	休講		
93390	中古文学演習 A	中古文学演習 A	2	12			
93400	中古文学演習 B	中古文学演習 B	2	12			
93410	中世文学演習 A		2	12	休講		
93420	中世文学演習 B		2	12			
93430	近世文学演習 A		2	12			
93440	近世文学演習 B		2	12	休講		
93790	近世文化演習 A		2	12			
93800	近世文化演習 B		2	12			
93450	近代文学演習 1 A		2	12	休講		
93460	近代文学演習 1 B		2	12			
93470	近代文学演習 2 A		2	12			
93480	近代文学演習 2 B		2	12	休講		
93490	近現代文学演習 A		2	12			
93500	近現代文学演習 B		2	12			
93510	日本語学演習 A	平安鎌倉時代の文法と語彙	2	12			

日本語日本文学専攻（博士前期課程）

種別	授業コード	科目名	講義題目	単位		推奨 履修年次	備考	履修方法
				前	後			
選択必修Ⅱ	93520	日本語学演習B	平安鎌倉時代の語彙	2	12			Ⅱ群から 8単位以上を修得
	93530	現代日本語学演習A		2	12			
	93540	現代日本語学演習B		2	12	休講		
	93810	日本語教育学演習A		2	12			
	93820	日本語教育学演習B		2	12			
	93550	漢文学演習A	漢文学精読1	2	12			
	93560	漢文学演習B	唐宋詩演習	2	12			
選択	89840	アジアの文化とジェンダー		2	12	休講		
	89850	ヨーロッパ現代思想	非暴力への思考	2	12			
	89860	キリスト教の現代的課題		2	12	休講		
選択必修Ⅲ	93730	修士論文指導	修士論文を執筆する	2	2			4単位を修得
	93740			2	2			
	93731			2	2			
	93741			2	2			
	93732			2	2			
	93742			2	2			
	93733			2	2			
	93743			2	2			
	93734			2	2	休講		
	93744			2	2			
	93735			2	2			
	93745			2	2			
	93736			2	2			
	93746			2	2			
93737	2	2	休講					
93747	2	2						

コミュニケーション学専攻（博士前期課程）

種別	授業コード	科目名	講義題目	単位	推奨	備考	履修方法	
				前後	履修年次			
コア科目	95010	心理コミュニケーション研究 1 A		2	12		I群から 4単位以上を修得	
	95020	心理コミュニケーション研究 1 B		2	12			
	95030	心理コミュニケーション研究 2 A		2	12	休講		
	95040	心理コミュニケーション研究 2 B		2	12			
	95580	心理コミュニケーション研究 3 A	コミュニケーションと対人関係の心理学	2	12			
	95590	心理コミュニケーション研究 3 B	認知行動療法の最新の知見について学ぶ	2	12			
	95620	心理コミュニケーション研究 4 A		2	12	休講		
	95630	心理コミュニケーション研究 4 B		2	12			
	95050	社会コミュニケーション研究 1 A		2	12			
	95060	社会コミュニケーション研究 1 B		2	12			
	95070	社会コミュニケーション研究 2 A	コミュニケーション論文献講読演習	2	12			
	95080	社会コミュニケーション研究 2 B	言語哲学関連文獻講読演習	2	12			
	95090	社会コミュニケーション研究 3 A		2	12			
	95100	社会コミュニケーション研究 3 B		2	12	休講		
	95110	言語コミュニケーション研究 1 A		2	12			
	95120	言語コミュニケーション研究 1 B		2	12			
	95130	言語コミュニケーション研究 2 A	言語によるコミュニケーションの諸相	2	12	集中		
	95140	言語コミュニケーション研究 2 B		2	12	休講		
	95550	言語コミュニケーション研究 3 A		2	12			
	95560	言語コミュニケーション研究 3 B		2	12			
	95150	文化コミュニケーション研究 1 A		2	12	休講		
	95160	文化コミュニケーション研究 1 B		2	12			
	95170	文化コミュニケーション研究 2 A	文化戦争と多文化主義	2	12			
	95180	文化コミュニケーション研究 2 B	文化戦争とリベラリズム	2	12			
	95190	文化コミュニケーション研究 3 A	異文化コミュニケーションにかんする英書講読を行う	2	12			
	95200	文化コミュニケーション研究 3 B	異文化コミュニケーションにかんする英書講読を行う	2	12			
	95210	文化コミュニケーション研究 4 A	マスメディア/ケア/コンテンツの視点から文化を考察する	2	12			
	95220	文化コミュニケーション研究 4 B	国際メディア/精神ケア/文化コンテンツの視点から考察する	2	12			
	隣接分野科目	99050	北アメリカ歴史・社会研究 1 A		2	12		休講
		99060	北アメリカ歴史・社会研究 1 B		2	12		
		99070	北アメリカ歴史・社会研究 2 A	多民族・多民族・多文化のアメリカを考えるA	2	12		
		99080	北アメリカ歴史・社会研究 2 B	多民族・多民族・多文化のアメリカを考えるB	2	12		
		91290	英語学研究 1 A	第二言語習得研究 1 効果的な英語学習・教育への示唆	2	12		
91300		英語学研究 1 B	第二言語習得研究 2 効果的な英語学習・教育への示唆	2	12			
91310		英語学研究 2 A		2	12			
91320		英語学研究 2 B		2	12	休講		
93230		歴史日本語学研究 A		2	12			
93240		歴史日本語学研究 B		2	12			
実習科目	95230	リサーチメソッド 1	社会調査法（主に定量調査）の企画立案、調査票の作成を演習する。	2	12			
	95240	リサーチメソッド 2	定量調査に必要な基本的な統計知識について演習する。	2	12			
	95250	リサーチメソッド 3	リサーチメソッド 3	2	12			
コア科目	95260	心理コミュニケーション演習 1 A		2	12	休講		
	95270	心理コミュニケーション演習 1 B		2	12			
	95280	心理コミュニケーション演習 2 A	心理コミュニケーションの演習（基礎的認知）	2	12			
	95290	心理コミュニケーション演習 2 B	心理コミュニケーションの演習（応用的認知）	2	12			
	95640	心理コミュニケーション演習 3 A		2	12	休講		
	95650	心理コミュニケーション演習 3 B		2	12			
	95600	心理コミュニケーション演習 4 A	心理学の研究に親しみ、自分の研究テーマを 発展させる	2	12			
	95610	心理コミュニケーション演習 4 B	心理学の研究に親しみ、自分の研究テーマを 発展させる	2	12			
	95300	社会コミュニケーション演習 1 A	子育て問題とジェンダー	2	12			
	95310	社会コミュニケーション演習 1 B	学校におけるジェンダー/セクシュアリティ問題	2	12			
95320	社会コミュニケーション演習 2 A		2	12	休講			
95330	社会コミュニケーション演習 2 B		2	12				

コミュニケーション学専攻（博士前期課程）

種別	授業コード	科目名	講義題目	単位		推奨 履修年次	備考	履修方法
				前	後			
選択必修Ⅱ コア科目	95340	社会コミュニケーション演習 3 A	国際社会学・多文化共生論の最新動向	2	12			Ⅱ群から 8単位以上を修得
	95350	社会コミュニケーション演習 3 B	「国際移動とジェンダー」研究の最新動向	2	12			
	95360	言語コミュニケーション演習 1 A	言語研究法の最前線 A～分析法の習得と実践～	2	12			
	95370	言語コミュニケーション演習 1 B	言語研究法の最前線 B～分析法の習得と実践～	2	12			
	95380	言語コミュニケーション演習 2 A	言語によるコミュニケーションの諸相	2	12			
	95390	言語コミュニケーション演習 2 B		2	12		休講	
	95570	言語コミュニケーション演習 3 B	語用論的方言学からみるコミュニケーションの多様性	2	12		集中	
	95400	文化コミュニケーション演習 1 A	スポーツする身体を考える	2	12			
	95410	文化コミュニケーション演習 1 B	パフォーマンスする身体を考える	2	12			
	95420	文化コミュニケーション演習 2 A		2	12			
	95430	文化コミュニケーション演習 2 B		2	12			
	95440	文化コミュニケーション演習 3 A		2	12		休講	
	95450	文化コミュニケーション演習 3 B		2	12			
	95460	文化コミュニケーション演習 4 A		2	12			
95470	文化コミュニケーション演習 4 B		2	12				
選択必修Ⅱ 隣接分野科目	99250	北アメリカ歴史・社会演習 1 A	アメリカ史学史概論	2	12			Ⅱ群から 8単位以上を修得
	99260	北アメリカ歴史・社会演習 1 B	アメリカ史学史概論 B	2	12			
	99270	北アメリカ歴史・社会演習 2 A		2	12			
	99280	北アメリカ歴史・社会演習 2 B		2	12		休講	
	91550	英語学演習 1 A		2	12			
	91560	英語学演習 1 B		2	12			
	91570	英語学演習 2 A	Discourse approach for cross-cultural communication	2	12			
	91580	英語学演習 2 B	Discourse approachと異文化コミュニケーション	2	12			
	93510	日本語学演習 A	平安鎌倉時代の文法と語彙	2	12			
	93520	日本語学演習 B	平安鎌倉時代の語彙	2	12			
選択	89840	アジアの文化とジェンダー		2	12		休講	
	89850	ヨーロッパ現代思想	非暴力への思考	2	12			
	89860	キリスト教の現代的課題		2	12		休講	
選択必修Ⅲ	95530			2	2			4単位を修得
	95531			2	2			
	95532			2	2			
	95533			2	2			
	95534			2	2			
	95535			2	2			
	95536			2	2			
	95537			2	2			
	95538			2	2			
	95539			2	2			
	95540	修士論文指導	修士論文指導	2	2		休講	
	95541			2	2			
	95542			2	2			
	95543			2	2			
	95544			2	2			
	95545			2	2			
	95546			2	2			
	95547			2	2			
95548			2	2				
95549			2	2				
9554A			2	2				
9554B			2	2				

英語英米文学専攻（博士後期課程）

種別	授業コード	科目名	講義題目	単位	推	要	備考	履修方法
				前後	履修年次	修		
選択必修Ⅰ	92010			2		123	休講	4単位以上を修得
	92011	イギリス文学特別研究A	イギリス・エリザベス朝演劇研究A	2		123		
	92012		初期近代イギリス研究：一次資料を使う	2		123		
	92020			2		123	休講	
	92021	イギリス文学特別研究B	イギリス・エリザベス朝演劇研究B	2		123		
	92022		初期近代イギリス研究：一次資料を使う	2		123		
	92030			2		123		
	92031	イギリス文化特別研究A		2		123		
	92040			2		123		
	92041	イギリス文化特別研究B		2		123		
	92140	イギリス歴史・社会特別研究A		2		123	休講	
	92150	イギリス歴史・社会特別研究B		2		123		
	92050	アメリカ文学特別研究A		2		123		
	92060	アメリカ文学特別研究B		2		123		
	92070	アメリカ文化特別研究A	多人種・多民族・多文化のアメリカを考えるA	2		123		
	92180			2		123	休講	
	92080	アメリカ文化特別研究B	多人種・多民族・多文化のアメリカを考えるB	2		123		
	92190			2		123		
	92160	アメリカ歴史・社会特別研究A		2		123	休講	
	92170	アメリカ歴史・社会特別研究B		2		123		
	92110	英語学特別研究A	応用言語学研究 A	2		123		
	92120	英語学特別研究B	応用言語学研究 B	2		123		
	92111	英語学特別研究A		2		123	休講	
	92121	英語学特別研究B		2		123		
選択必修Ⅱ	92200		イギリスの社会と探偵小説(シャーロック・ホームズ)	2		123		4単位以上を修得
	92201	イギリス文学特別演習A		2		123	休講	
	92202			2		123		
	92210		イギリスの社会と探偵小説(アガサ・クリスティほか)	2		123		
	92211	イギリス文学特別演習B		2		123		
	92212			2		123		
	92220			2		123		
	92221	イギリス文化特別演習A		2		123		
	92230			2		123		
	92231	イギリス文化特別演習B		2		123		
	92240	イギリス歴史・社会特別演習A		2		123	休講	
	92241	イギリス歴史・社会特別演習B		2		123		
	92250	アメリカ文学特別演習A		2		123		
	92260	アメリカ文学特別演習B		2		123		
	92270			2		123		
	92271	アメリカ文化特別演習A		2		123		
	92280			2		123		
	92281	アメリカ文化特別演習B		2		123		
	92290	アメリカ歴史・社会特別演習A	アメリカ史学史概論	2		123		
	92300	アメリカ歴史・社会特別演習B	アメリカ史学史概論B	2		123		
	92310			2		123	休講	
	92311	英語学特別演習A	Discourse approach for cross-cultural communication	2		123		
	92320			2		123	休講	
	92321	英語学特別演習B	Discourse approachと異文化コミュニケーション	2		123		
選択必修Ⅲ	92130			4	3	通年	休講	4単位を修得
	92131			4	3	通年		
	92132			4	3	通年	休講	
	92133	博士論文指導	博士論文指導	4	3			
	92134			4	3			
	92135			4	3	通年		
	92136			4	3			
92137			4	3				

日本語日本文学専攻（博士後期課程）

種別	授業コード	科目名	講義題目	単位	推 奨	備考	履修方法	
				前	後			履修年次
選択必修Ⅰ	94010	古代文学特別研究A	『古事記』『日本書紀』を読む	2	2	123	休講	4単位以上を修得
	94011			2	2	123		
	94020			2	2	123		
	94021	古代文学特別研究B	『古事記』『日本書紀』を読み解く（景行紀以降を中心に）	2	2	123	休講	
	94030			2	2	123		
	94031	中近世文学特別研究A		2	2	123	休講	
	94040			2	2	123		
	94041			2	2	123		
	94100	近世文化特別研究A	河竹黙阿弥作品の読解と考察A	2	2	123		
	94110			近世文化特別研究B	河竹黙阿弥作品の読解と考察B	2		
	94050	近代文学特別研究A	女性作家たちのプロレタリア文学			2	2	
	94052			2	2	123		
	94060	近代文学特別研究B	近現代文学研究の方法を学ぶB	2	2	123	休講	
	94061			2	2	123		
	94062			2	2	123		
	94070	日本語学特別研究A		2	2	123	休講	
	94080	日本語学特別研究B		2	2	123		
94120	日本語教育学特別研究A	質的な日本語教育研究（1）	2	2	123			
94130	日本語教育学特別研究B	質的な日本語教育研究（2）	2	2	123			
選択必修Ⅱ	94140	古代文学特別演習A	漢文学演習	2	2	123	休講	4単位以上を修得
	94141			2	2	123		
	94150	古代文学特別演習B	唐宋詩演習	2	2	123		
	94151			2	2	123		
	94160	中近世文学特別演習A		2	2	123		
	94161			2	2	123		
	94170			2	2	123		
	94171	中近世文学特別演習B		2	2	123		
	94180			2	2	123		
	94190	近世文化特別演習A		2	2	123	休講	
	94200	近世文化特別演習B		2	2	123		
	94201	近代文学特別演習A		2	2	123		
	94202			2	2	123		
	94210	近代文学特別演習B		2	2	123		
	94211			2	2	123		
	94212			2	2	123		
	94220	日本語学特別演習A	平安鎌倉時代の文法と語彙	2	2	123		
94230	日本語学特別演習B	平安鎌倉時代の語彙	2	2	123			
94240	日本語教育学特別演習A		2	2	123	休講		
94250	日本語教育学特別演習B		2	2	123			
選択必修Ⅲ	94091	博士論文指導	博士論文を執筆する	4	3	通年	休講	4単位を修得
	94092			4	3	通年		
	94093			4	3	通年		
	94090			4	3	通年		
	94094			4	3	通年		
	94095			4	3	通年		
94096	4	3	通年					

コミュニケーション学専攻（博士後期課程）

種別	授業コード	科目名	講義題目	単位	推	備考	履修方法	
				前後	要 履修年次			
選択必修Ⅰ	96010	心理コミュニケーション特別研究A		2	123	休講	4単位以上を修得	
	96011			2	123			
	96020	心理コミュニケーション特別研究B		2	123			
	96021			2	123			
	96030	社会コミュニケーション特別研究A	コミュニケーション論文読講義演習	2	123			
	96031			2	123			
	96032	社会コミュニケーション特別研究B		2	123	休講		
	96040			2	123			
	96041	社会コミュニケーション特別研究B	言語哲学関連の文献講義演習	2	123			
	96042			2	123			
	96050	言語コミュニケーション特別研究A		2	123	休講		
	96060	言語コミュニケーション特別研究B		2	123			
	96070	文化コミュニケーション特別研究A		2	123			
	96071			2	123			
	96072			文化戦争と多文化主義	2			123
	96073			異文化コミュニケーション英語講義を学ぶ	2			123
96080	文化コミュニケーション特別研究B		2	123	休講			
96081			2	123				
96082			文化戦争とリベラリズム	2		123		
96083			異文化コミュニケーション英語講義を学ぶ	2		123		
96100	心理コミュニケーション特別演習A		2	123	4単位以上を修得			
96101	心理コミュニケーション特別演習A	認知心理コミュニケーションの研究 (基礎心理学的な認知)	2	123		休講		
96110	心理コミュニケーション特別演習B	認知心理コミュニケーションの研究 (応用心理学的な認知)	2	123				
96111	心理コミュニケーション特別演習B	認知心理コミュニケーションの研究 (応用心理学的な認知)	2	123		休講		
96120	社会コミュニケーション特別演習A	子育て問題とジェンダー	2	123				
96121	社会コミュニケーション特別演習A	国際社会学・多文化共生論の最新動向	2	123		休講		
96122	社会コミュニケーション特別演習B	学校におけるジェンダー/ セクシュアリティ問題	2	123				
96130	社会コミュニケーション特別演習B	「国際移動とジェンダー」研究の最新動向	2	123		休講		
96131	社会コミュニケーション特別演習B	「国際移動とジェンダー」研究の最新動向	2	123				
96140	言語コミュニケーション特別演習A	言語研究法の最前線A～分析法の習得と実践～	2	123		4単位以上を修得		
96150	言語コミュニケーション特別演習B	言語研究法の最前線B～分析法の習得と実践～	2	123			休講	
96170	文化コミュニケーション特別演習A		2	123				
96171			スポーツする身体を考える	2			123	
96173			2	123			休講	
96172			2	123				
96180	文化コミュニケーション特別演習B		2	123			休講	
96181			パフォーマンスする身体を考える	2	123			
96182			2	123				
96183			2	123				
選択必修Ⅲ	96090	博士論文指導		4	3		通年 休講	4単位を修得
	96091			4	3		通年	
	96092			4	3			
	96093			4	3			
	96094			4	3			
	96095			4	3			
	96096			4	3			

国際交流専攻（博士前期課程）

群	種別	授業コード	科目名	講義題目	単位	履修	備考	履修方法	
					前後	履修 回 数 次			
第1群	グローバルゼーションと現代社会	89010			2	2		指導教授の担当する「研究総論」を修得	
		89011	グローバルゼーション研究総論		2	12			
		89020	現代社会論			2	12		休講
		89030	比較憲法論		2	12			
		89540	法秩序と現代社会	社会科学に関する外国語文献を読む	2	12			
		89040	情報技術と現代社会		2	12	休講		
		89060	ジェンダー論		2	12			
		89061	ジェンダー論	ジェンダー、フェミニズム理論	2	12	ジェンダー		
		89070	国際政治論	国際政治理論	2	12			
		89080	国際機構論		2	12			
		89090	国際人権論		2	12	休講		
		89100	国際平和論		2	12			
		89510	国際政治経済論		2	12			
		89110	開発経済論	国際開発協力研究	2	12			
		89130	地球環境論	資源利用と環境政策	2	12			
		89830	環境と持続可能性		2	12			
		89140	市民運動・NGO・NPO		2	12			
		89820	国際スポーツ論		2	12	休講		
		89550	文明間対話の可能性		2	12			
		89860	キリスト教の現代的課題		2	12			
89160	地域社会研究総論		2	12					
89161	地域社会研究総論		2	12		指導教授の担当する「研究総論」を修得			
第2群	グローバルゼーションと地域社会	89170	ヨーロッパ地域社会研究	ヨーロッパの社会と文化：課題とその行方	2	12		指導教授の担当する「研究総論」を修得	
		89050	北アメリカ歴史・社会研究 1 A		2	12	休講		
		89070	北アメリカ歴史・社会研究 2 A	多人種・多民族・多文化のアメリカを考える A	2	12			
		89190	ラテンアメリカ地域社会研究		2	12	休講		
		89200	アジア地域社会研究	アジア経済成長のカギ：イノベーション	2	12			
		89560	南アジア地域社会研究		2	12	休講		
		89270	ヨーロッパ社会とキリスト教		2	12			
		89210	開発と地域社会	持続可能な発展をローカル・グローバルな視点から捉える	2	12			
		89610	家族と地域社会	アジアの社会変動と家族	2	12	ジェンダー		
		89220	ヨーロッパ文化論	ヨーロッパ社会史研究	2	12			
		89230	ラテンアメリカ文化論		2	12			
		89240	アジア文化論	中国のユートピア文学から考える	2	12			
		89850	ヨーロッパ現代思想	非暴力への思考	2	12			
		89580	ヨーロッパの文化表象		2	12			
		89590	ヨーロッパの文化とジェンダー		2	12	休講 ジェンダー		
89840	アジアの文化とジェンダー		2	12	ジェンダー				
第3群	グローバルゼーションと日本	89290	日本近現代史研究総論		2	12		指導教授の担当する「研究総論」を修得	
		89291	日本近現代史研究総論		2	12			
		89310	日本歴史文化論		2	12	休講		
		89320	日中関係の歴史と現在	日中関係の歴史的考察	2	12			
		89330	日朝関係の歴史と現在		2	12			
		89340	欧米の社会科学と日本の社会科学		2	12			
		89660	日本の近代と横浜		2	12			
		89370	世界の中の日本国憲法		2	12	休講		
		89380	日本社会とジェンダー		2	12	ジェンダー		
		89390	日本社会と移民	移住の新世界：20世紀における日本人の海外移住の歴史・社会・文化	2	12			
		89400	日本の環境問題		2	12	休講		
		89410	キリスト教と日本社会		2	12			
		89810	日本経済の歴史と現在	現代日本経済研究	2	12			
		89420			2	12			
		89421	文献講読		2	12			
89422			2	12					
89440			2	12					
89441	言語演習		2	12	休講				
89443			2	12					
89520			2	12					
89521	国際交流特殊研究		2	12					
89522			2	12					
89790	国際交流実務研修		2	12					
89791			2	12					
89620	自分史の書き方・時代の見方		2	12					

国際交流専攻（博士前期課程）

群	種別	授業コード	科目名	講義題目	単位		履修年次	備考	履修方法
					前	後			
研究演習	グローバル化とジェンダー問題	89870	グローバル化とジェンダー問題	グローバル化とジェンダー問題	2	12			指導教授の担当する「研究演習」を修得 修士論文選択者： 4単位 修士レポート選択者： 2単位
		89871			2	12			
		89872			2	12			
		89873			2	12			
		89874			2	12			
		89875			2	12			
		89876			2	12			
		89877			2	12			
		89670			2	2			
		89671			2	2			
89678	2	2							
89679	2	2							
89684	2	2							
89685	2	2							
89672	2	2	休講						
89673	2	2							
89674	2	2							
89675	2	2							
89676	2	2							
89677	2	2	休講						
89680	2	2							
89681	2	2							
89682	2	2							
89683	2	2							
89686	2	2							
89687	2	2							
89688	2	2							
89689	2	2							
89690	2	2							
89691	2	2							
89692	2	2							
89693	2	2							
89694	2	2							
89695	2	2							
89696	2	2							
89697	2	2							
89698	2	2							
89699	2	2							
89700	2	2							
89701	2	2							
89702	2	2							
89703	2	2							
89704	2	2							
89705	2	2							
89706	2	2	休講						
89707	2	2							
89708	2	2							
89709	2	2							
89710	2	2							
89711	2	2							
89712	2	2							
89713	2	2	休講						
89714	2	2							
89715	2	2							
89716	2	2							
89717	2	2							
89718	2	2	休講						
89719	2	2							
89720	2	2							
89721	2	2							
89722	2	2							
89723	2	2							
89724	2	2	休講						
89725	2	2							
89726	2	2							
89727	2	2							
89728	2	2							
89729	2	2							

国際交流専攻（博士前期課程）

群	種別	授業コード	科目名	講義題目	単位		履修年次	備考	履修方法
					前	後			
		89730			2		2		
		89731			2		2		
		89738			2		2		
		89739			2		2		
		89744			2		2		
		89745			2		2		
		89732			2		2		
		89733			2		2	休講	
		89734			2		2		
		89735			2		2		
		89736			2		2		
		89737			2		2	休講	
		89740			2		2		
		89741			2		2		
		89742			2		2		
		89743			2		2		
		89746			2		2		
		89747			2		2		
		89748			2		2		
		89749			2		2		
		89750			2		2		
		89751			2		2		
		89752			2		2		
		89753			2		2		
		89754			2		2		
		89755			2		2		
		89756			2		2		
		89757			2		2		
		89758			2		2		
		89759			2		2		
		89760	修了レポート指導		2		2		指導教授の担当する科目を4単位以上修得。履修上の注意あり。
		89761			2		2		
		89762			2		2		
		89763			2		2		
		89764			2		2		
		89765			2		2		
		89766			2		2	休講	
		89767			2		2		
		89768			2		2		
		89769			2		2		
		89770			2		2		
		89771			2		2		
		89772			2		2		
		89773			2		2	休講	
		89774			2		2		
		89775			2		2		
		89776			2		2		
		89777			2		2		
		89778			2		2	休講	
		89779			2		2		
		89780			2		2		
		89781			2		2		
		89782			2		2		
		89783			2		2		
		89784			2		2	休講	
		89785			2		2		
		89786			2		2		
		89787			2		2		
		89788			2		2		
		89789			2		2		

修士レポート指導

国際交流専攻（博士後期課程）

群	種別	授業コード	科目名	講義題目	単位 前	後	推奨 履修年次	備考	履修方法
第1群	ゼーション研究	グローバル研究	90010	グローバルゼーションと		2	123	休講	「特別研究」 4単位を修得
			90011	現代社会特別研究	社会科学に関する外国語文献を読む	2	123		
			90020	グローバルゼーションと	国際開発協力研究	2	123		
第2群	地域社会	特別研究	90021	グローバルゼーションと	国際政治理論	2	123		
			90022	国際関係特別研究	国際政治経済 発展	2	123		
			90030	グローバルゼーションと		2	123		
			90031	社会運動特別研究		2	123	休講	
			90040		ヨーロッパの社会と文化：課題とその行方	2	123		
			90043		アジアの社会変動と家族	2	123		
			90041	グローバルゼーションと	「環境と開発」「持続可能な発展」から途上	2	123		
			90042	地域社会特別研究	国社会を捉える				
			90044			2	123		
			90050			2	123		
第3群	ゼーションと日本	特別研究	90051			2	123	休講	
			90053			2	123		
			90052	グローバルゼーションと		2	123		
			90054	地域文化特別研究		2	123		
			90055		非暴力への思考	2	123		
			90056			2	123		
			90060			2	123	休講	
			90061	グローバルゼーションの中の		2	123		
			90062	日本特別研究	グローバル化と日中関係の変化	2	123		
			90063			2	123		
特別演習	特別演習	90070	移住の新世紀：日本人の海外移住の歴史・		2	123			
		90071	グローバルゼーションと	社会・文化と現在社会	2	123			
		90072	日本の社会問題特別研究	地球環境と日本社会との関連性、および環	2	123			
		90072		境ビジネス	2	123			
博士論文指導	博士論文指導	90100		現代日本経済研究	2	123			
		90101			2	123			
		90102			2	123			
		90103			2	123			
		90104			2	123			
		90105			2	123			
		90106			2	123			
		90130	国際交流実務研修		2	123			
		90131			2	123			
		90140			2	123			
		90141	グローバルゼーション研究		2	123			
		90142	特別演習		2	123			
		90143			2	123			
		90090			4	3	通年		
		90091			4	3	通年		
		90093			4	3	通年 休講		
		90092			4	3	通年		
		90094			4	3	通年		
90095			4	3	通年				
90096			4	3	通年				
90097			4	3	通年				
90098	博士論文指導		4	3	通年 休講				
90099			4	3	通年				
90100			4	3	通年				
90101			4	3	通年				
90102			4	3	通年				
90103			4	3	通年 休講				
90104			4	3	通年				
90105			4	3	通年				
90106			4	3	通年 休講				

音楽芸術専攻（修士課程）（2023年度以降入学者）

種別	授業コード	科目名	講義題目	単位		履修年次	備考	履修方法
				前	後			
選択必修Ⅰ	97450	音楽文化研究 1 A		2	12		隔年 休講	I群から 4単位以上修得
	97460	音楽文化研究 1 B		2	12			
	97470	音楽文化研究 2 A	サウンドデザイン研究Ⅰ	2	12		隔年	
	97480	音楽文化研究 2 B	サウンドデザイン研究Ⅱ	2	12			
	9J010	音楽文化研究 3 A		2	12		隔年 休講	
	9J020	音楽文化研究 3 B		2	12			
	9J030	音楽文化研究 4 A		2	12		隔年 休講	
	9J040	音楽文化研究 4 B		2	12			
	9J050	音楽文化研究 5 A	大学院におけるコンサート制作	2	12		隔年	
	9J060	音楽文化研究 5 B		2	12			
	9J070	音楽表現研究 1 A		2	12		隔年 休講	
	9J080	音楽表現研究 1 B		2	12			
	9J090	音楽表現研究 2 A		2	12		隔年 休講	
	9J100	音楽表現研究 2 B		2	12			
	9J110	音楽表現研究 3 A		2	12		隔年	
	9J120	音楽表現研究 3 B		2	12			
9J130	音楽表現研究 4 A	演奏比較論	2	12				
9J140	音楽表現研究 4 B	演奏比較論	2	12				
9J150	音楽表現研究 5 A	多様な音楽授業の研究・指導	2	12				
9J160	音楽表現研究 5 B	多様な音楽授業の研究・指導実践	2	12				
97530	音楽文化演習 1 A		2	12		隔年 休講		
97540	音楽文化演習 1 B		2	12				
97550	音楽文化演習 2 A		2	12				
97560	音楽文化演習 2 B		2	12				
9J170	音楽文化演習 3 A		2	12				
9J180	音楽文化演習 3 B		2	12				
9J190	音楽文化演習 4 A		2	12				
9J200	音楽文化演習 4 B		2	12				
9J210	音楽文化演習 5 A		2	12				
9J220	音楽文化演習 5 B		2	12				
9J230	音楽表現演習 1 A		2	12				
9J240	音楽表現演習 1 B		2	12				
9J250	音楽表現演習 2 A		2	12				
9J260	音楽表現演習 2 B		2	12				
9J270	音楽表現演習 3 A		2	12				
9J280	音楽表現演習 3 B		2	12				
9J290	音楽表現演習 4 A		2	12				
9J300	音楽表現演習 4 B		2	12				
9J310	音楽表現演習 5 A		2	12				
9J320	音楽表現演習 5 B		2	12				
選択必修Ⅱ	97250	音楽人間環境科学A	環境・音楽・人について音楽療法的見地から学ぶ	2	12		隔年 休講	II群から 4単位以上修得
	97260	音楽人間環境科学B	環境・音楽・人について音楽療法的見地から学ぶ	2	12			
	9J330	音楽・音響メディア表現論A	音楽・音響メディアを用いた表現	2	12			
	9J340	音楽・音響メディア表現論B	音楽・音響メディアを用いた表現	2	12			
	9J350	音楽教育と先端メディアA	音楽教育とIoT・先端技術	2	12			
	9J360	音楽教育と先端メディアB	音楽教育とSTEAM教育	2	12			
	9J370	音楽の学術研究・情報論A	修士論文執筆のためのアカデミック・スキルズ	2	12			
	9J380	音楽の学術研究・情報論B	音楽家としてのキャリアパスと研究方法の探究	2	12			
	9J390	演奏様式研究理論と実践A	作品を深く理解し表現に結び付ける	2	12			
	9J400	演奏様式研究理論と実践B	様々な時代の作品を学習・発表する	2	12			
	9J410	音楽家のための事業創造論A	オペラハウスの運営研究	2	12			
	9J420	音楽家のための事業創造論B	音楽を産業という視点から捉え事業マインドを養う	2	12			
	9J430	アーティストのための身体論A	表現者のための実用的な身体の在り方を研究、実践する	2	12			
	9J440	アーティストのための身体論B	英国王立演劇アカデミーの俳優訓練法を用いて音楽表現力を学ぶ	2	12			
	9J450	教会音楽研究理論と実践A	礼拝の音楽について学ぶ	2	12			
	9J460	教会音楽研究理論と実践B	賛美について考える	2	12			

音楽芸術専攻（修士課程）（2023年度以降入学者）

種別	授業コード	科目名	講義題目	単位		履修年次	備考	履修方法
				前	後			
選択必修Ⅲ	97570	修士研究指導	研究主題に対するディスカッション及びアドバイス	2	2			4単位修得
	97571			2	2			
	97572			2	2			
	97573			2	2			
	97580			2	2			
	97581			2	2			
	97582			2	2	休講		
	97583			2	2			
	97584			2	2			
	97585			2	2			
	97586			2	2			
	97587			2	2	休講		
97588	2	2						
97589	2	2						
選択P A	9760P	実技レッスンA	背景研究・論文作成	3	12			選択P Aから24単位まで履修可。修了要件への参入は6単位まで。
	9760Q		音楽	3	12			
	9760R		管楽器の実技演習	3	12			
	9760S		ピアノ	3	12			
	9760T		チェンバロ	3	12			
	9760U		作編曲	3	12			
	9760V		弦楽器	3	12			
	9760W		クラヴィコード	3	12			
	9760X		オルガン	3	12			
	9760Y		DTMとメディア・アート	3	12			
	9765P	実技レッスンB	背景研究・論文作成	3	12			
	9765Q		音楽	3	12			
	9765R		管楽器の実技演習	3	12			
	9765S		ピアノ	3	12			
	9765T		チェンバロ	3	12			
	9765U		作編曲	3	12			
	9765V		弦楽器	3	12			
	9765W		クラヴィコード	3	12			
	9765X		オルガン	3	12			
	9765Y		DTMとメディア・アート	3	12			
	9770P	特別実技レッスンA	背景研究・論文作成	1	12			
	9770Q		音楽	1	12			
	9770R		管楽器の実技演習	1	12			
	9770S		ピアノ	1	12			
	9770T		チェンバロ	1	12			
	9770U		作編曲	1	12			
	9770V		弦楽器	1	12			
	9770W		クラヴィコード	1	12			
	9770X		オルガン	1	12			
	9775P		特別実技レッスンB	背景研究・論文作成	1	12		
9775Q	音楽	1		12				
9775R	管楽器の実技演習	1		12				
9775S	ピアノ	1		12				
9775T	チェンバロ	1		12				
9775U	作編曲	1		12				
9775V	弦楽器	1		12				
9775W	クラヴィコード	1		12				
9775X	オルガン	1		12				

# 学 籍

# 学 籍

## 修業年限及び在学期間

### (1) 修業年限

大学院の標準修業年限は、次のとおりです。

研究科	課程	修業年限
人文科学・国際交流研究科	博士前期課程	2年（4学期）
	博士後期課程	3年（6学期）
音楽研究科	修士課程	2年（4学期）

国際交流研究科博士前期課程への入学に際して、長期にわたる履修を願い出て入学を許可された長期履修学生の標準修業年限は次のとおりです。

研究科／種別	課程	修業年限
国際交流研究科／長期履修学生	博士前期課程	4年（8学期）

### (2) 在学期間

→大学HP 大学院学則第20条の6

大学院の在学期間は、次のとおりです。この期間を超えて在籍することはできません。

研究科	課程	在学期間
人文科学・国際交流研究科	博士前期課程	4年（8学期）
	博士後期課程	6年（12学期）
音楽研究科	修士課程	4年（8学期）

国際交流研究科博士前期課程の長期履修学生の在学期間は次のとおりです。

研究科／種別	課程	在学期間
国際交流研究科／長期履修学生	博士前期課程	8年（16学期）

→大学HP 大学院学則第20条の6

## 休学

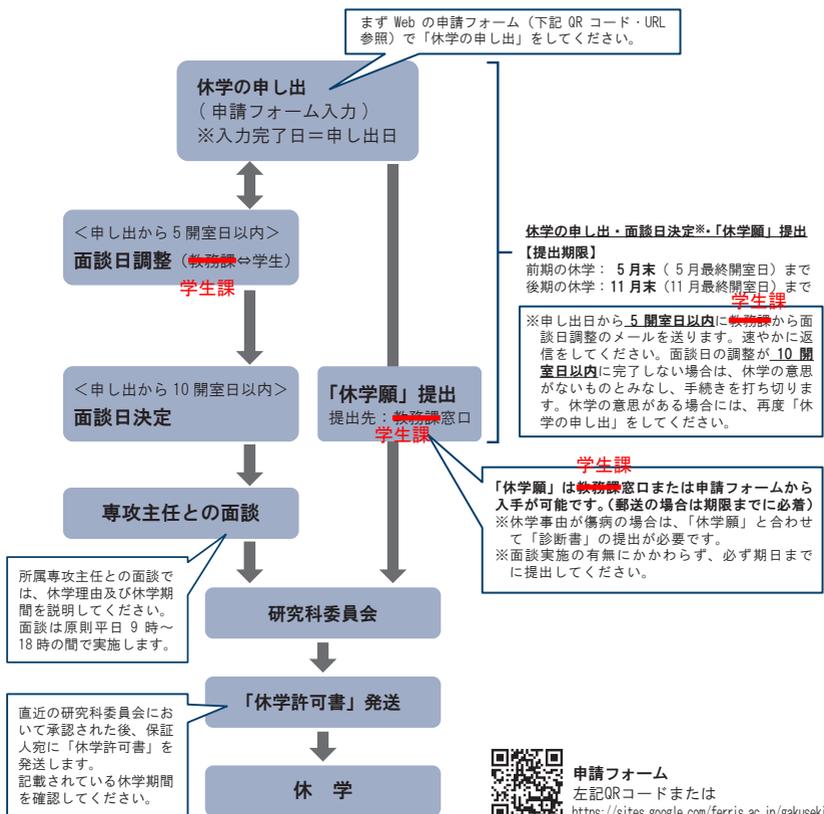
病気その他やむを得ない理由により修学することができない場合は、次の休学の手続きの流れに沿って、申し出をし、専攻主任との面談及び定められた期日までに「休学願」（本学様式）の提出をもって休学を願ひ出ることができます。

なお、「休学願」は、学生本人及び本学に届け出た保証人双方のサイン（自署）と捺印が必要です。

→大学HP 大学院学則第24条・第24条の2

→スケジュール、手続き窓口はp.5

休学の手続きの流れ



### 休学期間

前期もしくは後期の1学期、または1年を区分とします。

休学期間は修業年限の年数を超えることはできません。また、休学期間を修業年限及び在学期間に算入することはできません。

### 進級・年次の扱い

後期時点での在学期数（下表参照）に応じ、翌年度4月に1学年進級します。

ただし、修業年限を超えて進級することはありません。

当該年度後期の在学期数	翌年度4月の年次
1, 2	2年次
3, 4	3年次

### 在籍料、授業料等学納金の扱い

休学者は、学期ごとに所定の在籍料を大学院学則の規定に従って納入しなければなりません。

また、施設設備費については、休学中も大学院学則の規定に従って納入しなければなりません。

→大学HP 大学院学則第31条の5

→大学HP 大学院学則第31条の4第2項

## 復学

### 復学の時期

届け出た休学期間を過ぎると、自動的に復学となります。

ただし、健康上の理由で休学した場合は、復学後の学生生活が支障なく再開可能かの確認を含めて、校医との面談を行います。

さらに続けて休学を希望する場合または退学を希望する場合は別途手続きが必要です。休学期間が終了する前に教務課に問い合わせてください。

学生課

## 退学

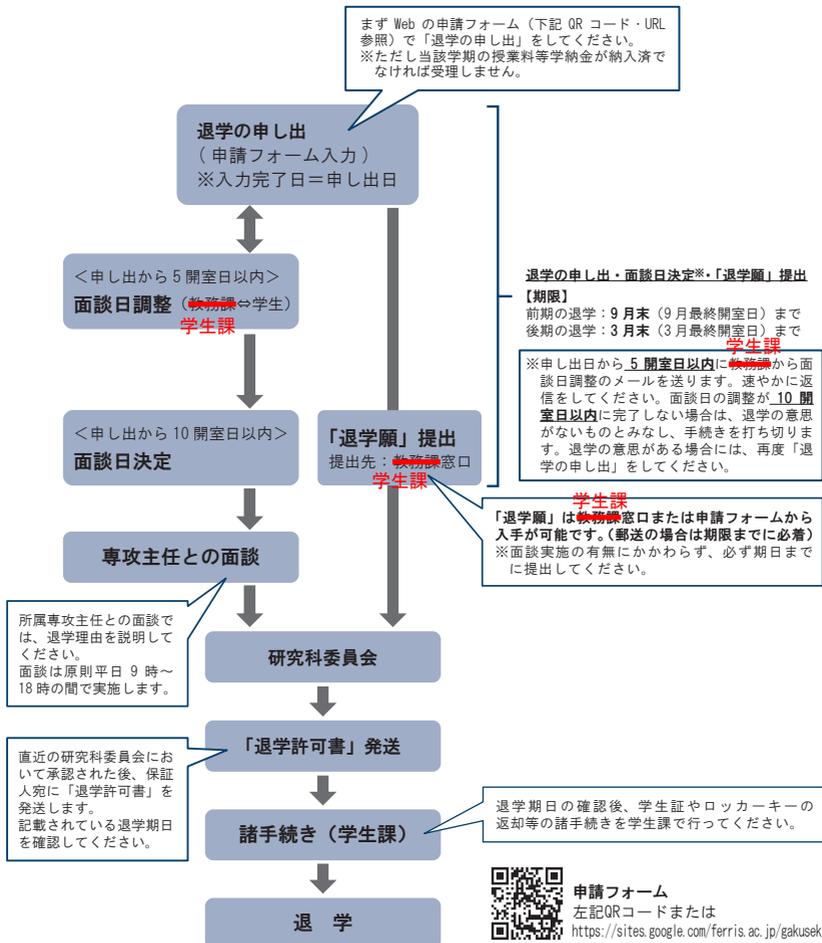
退学を希望する場合は、次の退学の手続きの流れに沿って、申し出をし、専攻主任との面談及び定められた期日までに「退学願」（本学様式）の提出をもって退学を願い出ることができます。

なお、「退学願」は、学生本人及び本学に届け出た保証人双方のサイン（自署）と捺印が必要です。

→大学HP 大学院学則第24条・第24条の2

→スケジュール、手続窓口はp.5

退学の手続きの流れ



なお、博士後期課程の標準修業年限に達して退学する場合も、所定の「退学願」の提出をもって願い出なければなりません。

## 除 籍

学生が次のいずれかに該当する場合には、除籍されることがあります。

→大学HP 大学院学則第27条の2

- (1) 在学期間を超えて修了資格を得られない場合
- (2) 授業料等学納金の納入を怠った場合
- (3) 修業年限と同年数の休学期間を超えて、なお復学できない場合
- (4) 死亡した場合
- (5) 長期間にわたり行方不明の場合

なお、除籍日以降の履修・成績等はすべて無効となります。

## 留 学

研究科委員会の許可を得て外国の大学院に留学する場合、1年を限度として、その留学期間を、修業年限及び在学期間に算入することができます。また、博士後期課程の学生に限り、研究科委員会の許可を得て、留学期間を更に1年を限度として延長することができます。ただし、本大学院の規定の適用を受けず、休学して留学した場合はこの限りではありません。

→大学HP 大学院学則第23条

## 再入学

本大学院を退学した者または除籍を受けた者が再入学を願ひ出た場合は、原則として退学または除籍日を含む年度の末日から2年以内に所定の手続きによって願ひ出なければなりません。研究科委員会の議を経て、再入学を許可することがあります。なお、再入学の時期は学期の始めとします。

博士論文の提出を目的とした博士後期課程への再入学を希望する場合は、博士の学位申請のプロセス(pp.26～27)に定められた手続きとします。

→大学HP 大学院学則第28条

→大学HP 大学院再入学に関する内規

### 【再入学願の提出期限・提出先】

前期から再入学する場合	～1月最終開室日
後期から再入学する場合	～7月最終開室日
提出先	教務課 学生課

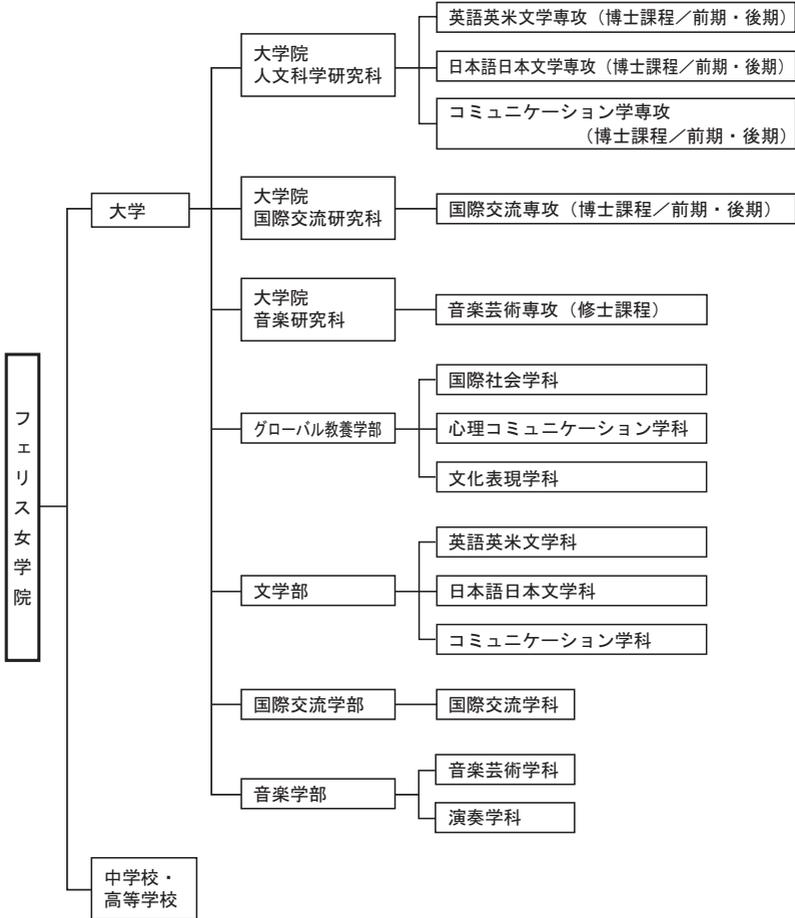
### ※留学生の場合

前期から再入学する場合	～前年度10月最終開室日
後期から再入学する場合	～5月最終開室日
提出先	教務課 学生課

# 資料編

# 資料編

## 組織



## フェリス女学院大学の沿革

本学の源流は、1870（明治3）年に米国改革教会の宣教師、メアリー・E. キダーが始めた私塾にさかのぼります。これは、ローマ字や医療事業等で知られる長老教会宣教師ヘボン博士のクララ夫人が、1863（文久3）年に開いた家塾を引き継いだもので、キダーは1871年にこれを女子だけの学校としました。そして、1875年、山手の外国人居留地に校舎を建て、校名をフェリス・セミナリーとして寄宿学校を開校するに至りました。「フェリス」の名は、キダーを派遣し、その教育を支えた改革教会伝道局主事フェリス博士父子を記念するものです。

本学は、敬虔な人格と優れた教養によって、創造的に人類社会に貢献する女性の育成を求め続けて、今日に至っています。

- 1870（明治3）年 メアリー・E. キダー、ヘボン施療所で授業開始。〈フェリス女学院の発祥〉
- 1875（ 8）年 山手178番に校舎落成。この頃「フェリス・セミナリー」と名づける。
- 1887（ 20）年 高等科設置。校舎拡張。
- 1889（ 22）年 校名を「フェリス和英女学校」とする。講堂「ヴァン・スカイック・ホール」完成。
- 1899（ 32）年 私立学校令により認可。特別科（高等科に替えて）設置。
- 1903（ 36）年 特別科を文学科・聖書研究科の2科（18～21歳）とする。英語師範科（16～19歳）設置。
- 1908（ 41）年 特別科を高等科（英文学部・神学部）に改める。
- 1919（大正8）年 東京女子大学創立に協力し高等科廃止。
- 1923（ 12）年 関東大震災により校舎倒壊焼失。カイパー校長殉職。
- 1927（昭和2）年 「専門学校入学者検定規定」による指定認可。
- 1929（ 4）年 新校舎・カイパー記念講堂竣工。
- 1930（ 5）年 高等部（英文科・家政科、17～19歳）設置。
- 1939（ 14）年 戦時下、米国伝道局経営の社団法人から日本の財団法人となる。
- 1941（ 16）年 校名を「横浜山手女学院」に変更。
- 1947（ 22）年 専門学校（旧制）3年（英文科・家政科・音楽科）設置。
- 1950（ 25）年 校名を「フェリス女学院」と改称。新学制により専門学校を短期大学（英文科・家政科）に改編。翌年に音楽科開設。
- 1965（ 40）年 大学開設。短期大学（英文科）を発展改組し、大学文学部（英文学科・国文学科）開設。
- 1970（ 45）年 学院創立100周年。
- 1988（ 63）年 短期大学（家政科）を発展改組し、文学部に国際文化学科開設。大学緑園キャンパス開設。
- 1989（平成1）年 短期大学（音楽科）を発展改組し、大学音楽学部（声楽学科・器楽学科・楽理学科）開設。フェリスホール竣工。
- 1991（ 3）年 大学院人文科学研究科（英文学専攻・日本文学専攻）修士課程開設。
- 1992（ 4）年 大学院人文科学研究科（地域文化専攻）修士課程開設。
- 1993（ 5）年 文学部国文学科を日本文学科に名称変更。
- 1995（ 7）年 大学院人文科学研究科を博士課程前期・後期に改組。  
大学院人文科学研究科（英文学専攻・日本文学専攻）博士後期課程開設。
- 1997（ 9）年 文学部国際文化学科を発展改組し、国際交流学部（国際交流学科）開設。

- 1998 (平成10) 年 大学院音楽研究科 (声楽専攻・器楽専攻・創作表現専攻) 修士課程開設。  
国際学生交流会館開設。
- 2001 ( 13) 年 大学院国際交流研究科 (国際交流専攻) 博士課程前期・後期開設。  
緑園キャンパス施設拡充 (文学部棟、キダーホール・緑園、図書館竣工)。
- 2002 ( 14) 年 中高新校舎・新カイバー記念講堂竣工。
- 2004 ( 16) 年 文学部コミュニケーション学科開設。  
音楽学部楽理学科を音楽芸術学科に、大学院音楽研究科創作表現専攻を音楽芸術専攻に  
名称変更。
- 2005 ( 17) 年 音楽学部声楽学科・器楽学科を演奏学科に改組。
- 2008 ( 20) 年 大学院人文科学研究科 (コミュニケーション学専攻) 博士前期課程開設。
- 2009 ( 21) 年 大学院音楽研究科を音楽芸術専攻・演奏専攻に改組。
- 2010 ( 22) 年 学院創立140周年。大学院人文科学研究科 (コミュニケーション学専攻) 博士後期課程開設。
- 2014 ( 26) 年 文学部英文学科を英語英米文学科に、文学部日本文学科を日本語日本文学科に名称変更。
- 2015 ( 27) 年 大学開設50周年。
- 2017 ( 29) 年 全学教養教育機構 (CLA:Center for the Liberal Arts) 開設。
- 2018 ( 30) 年 大学院人文科学研究科英文学専攻を英語英米文学専攻に、人文科学研究科日本文学専攻  
を日本語日本文学専攻に名称変更。
- 2019 ( 31) 年 音楽学部演奏学科募集停止、音楽芸術学科に改組統合。
- 2020 (令和 2) 年 学院創立150周年。
- 2023 ( 5) 年 大学院音楽研究科演奏専攻募集停止、音楽芸術専攻に改組統合。
- 2025 ( 7) 年 文学部、音楽学部、国際交流学部募集停止、グローバル教養学部 (国際社会学科・心理  
コミュニケーション学科・文化表現学科) に発展改組。

専任教員一覧〔大学院〕

2025年3月現在

学長

教授	小檜山 ルイ
----	--------

副学長

教授	杉之原 真子
教授	<del>武井 涼子</del> 上原 良子

人文科学研究科

英語英米文学専攻 博士前期課程

教授	梅崎 透
教授	大畑 甲太
教授	富樫 剛
教授	中川 正紀
教授	向井 秀忠
教授	由井 哲哉
教授	饒平名 尚子
准教授	小泉 泉
准教授	関口 洋平
准教授	パトリック ヘラー HELLER, Patrick S.

英語英米文学専攻 博士後期課程

教授	梅崎 透
教授	大畑 甲太
教授	富樫 剛
教授	中川 正紀
教授	向井 秀忠
教授	由井 哲哉
教授	饒平名 尚子

日本語日本文学専攻 博士前期課程

教授	勝田 耕起
教授	島村 輝
教授	松田 浩
教授	吉田 弥生
准教授	井内 健太
准教授	宋 喆
教授	谷 知子

日本語日本文学専攻 博士後期課程

教授	勝田 耕起
教授	島村 輝
教授	谷 知子
教授	松田 浩
教授	吉田 弥生
准教授	宋 喆

コミュニケーション学専攻 博士前期課程

教授	相澤 一
教授	井上 恵美子
教授	小ヶ谷 千穂
教授	齋藤 孝滋
教授	澤田 佳世
教授	潮村 公弘
教授	高田 明典
教授	高橋 京子
教授	藤巻 光浩
准教授	大上 真礼
准教授	仲嶺 実由子
准教授	引地 達也
准教授	山崎 浩一

コミュニケーション学専攻 博士後期課程

教授	相澤 一
教授	井上 恵美子
教授	小ヶ谷 千穂
教授	齋藤 孝滋
教授	澤田 佳世
教授	潮村 公弘
教授	高田 明典
教授	高橋 京子
教授	藤巻 光浩

国際交流研究科

国際交流専攻 博士前期課程

教授	荒井 真
教授	泉谷 陽子
教授	上原 良子
教授	袁 媛
教授	金 香男
教授	齊藤 直
教授	佐藤 輝
教授	新城 道彦
教授	杉之原 真子
教授	高柳 彰夫
教授	知足 章宏
教授	ヒガ, マルセーロ HIGA, Marcelo G.
教授	古内 洋平
教授	ベンヤミン ミドルトン Benjamin MIDDLETON
教授	矢野 久美子
准教授	上原 かおり
准教授	遠藤 健太
准教授	空 由佳子
准教授	高雄 綾子
准教授	山本 千晶

国際交流専攻 博士後期課程

教授	荒井 真
教授	泉谷 陽子
教授	上原 良子
教授	金 香男
教授	齊藤 直
教授	佐藤 輝
教授	新城 道彦
教授	杉之原 真子
教授	高柳 彰夫
教授	知足 章宏
教授	ヒガ, マルセーロ HIGA, Marcelo G.
教授	古内 洋平
教授	矢野 久美子

音楽研究科

音楽芸術専攻 修士課程

教授	落合 敦
教授	黒川 浩
<del>教授</del>	<del>武井 涼子</del>
教授	土屋 広次郎
教授	谷口 昭弘
教授	星野 聡
准教授	瀬藤 康嗣
准教授	中西 宣人

役職者等

学院長	秋岡 陽
学長	小檜山ルイ
全学教育担当副学長	杉之原真子
全学教養教育機構長	
学修サポートセンター長	
事業推進担当副学長	<del>武井 涼子</del> 上原 良子
教務部長	古内 洋平
言語センター長	富樫 剛
学生部長	
学生支援センター長	金 香男
国際部長	
国際センター長	勝田 耕起
入試部長	矢野久美子
附属図書館長	谷口 昭弘
山手総括主事	相澤 一
宗教主事	
キリスト教センター長	富樫 剛
ボランティアセンター長	藤巻 光浩
ジェンダースタディーズセンター長	<del>山崎 浩</del> 澤田 佳世
教職課程主任	工藤 理恵
日本語教員養成主任教員	

大学院委員	由井 哲哉
	吉田 弥生
	<del>荒井 真 泉谷 陽子</del>
	高柳 彰夫
	土屋広次郎
大学評議員	黒川 浩
	小ヶ谷千穂
	藤巻 光浩
	吉田 弥生
	由井 哲哉
	<del>荒井 真 泉谷 陽子</del>
	土屋広次郎

人文科学研究科

研究科長	高田 明典
英語英米文学専攻主任	向井 秀忠
日本語日本文学専攻主任	松田 浩
コミュニケーション学専攻主任	小ヶ谷千穂
教務責任者	大畑 甲太

国際交流研究科	荒井 真(代行)
研究科長	<del>上原 良子</del>
国際交流専攻主任	泉谷 陽子
教務責任者	新城 道彦

音楽研究科	
研究科長	谷口 昭弘
音楽芸術専攻主任	土屋広次郎
教務責任者	瀬藤 康嗣

グローバル教養学部

学部長	梅崎 透
国際社会学科主任	泉谷 陽子
国際社会学科教務主任	新城 道彦
国際社会学科入試委員	佐藤 輝
心理コミュニケーション学科主任	小ヶ谷千穂
心理コミュニケーション学科教務主任	関口 洋平
心理コミュニケーション学科入試委員	山本 千晶
文化表現学科主任	吉田 弥生
文化表現学科教務主任	大畑 甲太
文化表現学科入試委員	遠藤 健太

文学部

学部長	高田 明典
英語英米文学科主任	向井 秀忠
日本語日本文学科主任	松田 浩
コミュニケーション学科主任	小ヶ谷千穂
教務主任	大畑 甲太

国際交流学部

学部長	荒井 真(代行)
研究科長	<del>上原 良子</del>
国際交流学科主任	泉谷 陽子
教務主任	新城 道彦

音楽学部

学部長	谷口 昭弘
音楽芸術学科主任	土屋広次郎
演奏学科主任	黒川 浩
教務主任	瀬藤 康嗣

## 教務主任・教務委員、教務責任者、科目責任者・語学責任者

履修計画を立てるにあたり、下記の教員が相談に応じます。

【教務主任・教務委員】：各学部・学科の専門科目に関すること、所属学部・学科学生の履修計画全般に関すること。

文 学 部	大畑 甲太 教務主任 由井 哲哉 (英語英米文学科) 宋 喆 (日本語日本文学科) 引地 達也 (コミュニケーション学科)
国 際 交 流 学 部	新城 道彦 教務主任 齊藤 直 空 由佳子 知足 章宏
音 楽 学 部	瀬藤 康嗣 教務主任 <del>大日本学</del> 中西 宣人 (音楽芸術学科) 黒川 浩 (演奏学科)

【教務責任者】

人 文 科 学 研 究 科	大畑 甲太
国 際 交 流 研 究 科	新城 道彦
音 楽 研 究 科	瀬藤 康嗣

【科目責任者・語学責任者】：次の各科目に関すること。

C L A コ ア 科 目	<del>飛井 爽</del> (全般) 杉之原 真子 相澤 一 (キリスト教) <del>木元</del> (情報リテラシー) 井内 健太 高橋 京子 (健康・スポーツ)
教 職 課 程	<del>山崎 浩</del> 澤田 佳世
日 本 語 教 員 養 成 講 座	工藤 理恵
大学で学ぶ日本語・日本事情科目	安 祥希・小畑美奈恵

英 語	小泉 泉
フ ラ ン ス 語	木水 千里
ド イ ツ 語	高雄 綾子
ス ペ イ ン 語	遠藤 健太
中 国 語	上原かおり
朝 鮮 語	金 香男

古 典 ギ リ シ ア 語	上原かおり
ラ テ ン 語	
イ タ リ ア 語	
日 本 語 (日本語Ⅰ,Ⅱ)	工藤 理恵

## 2025年度の主な制度変更 [大学院関連]

### 授業科目の改廃

#### 1 コミュニケーション学専攻 博士前期課程

##### 新設

心理コミュニケーション研究3 A	2
心理コミュニケーション研究3 B	2
心理コミュニケーション研究4 A	2
心理コミュニケーション研究4 B	2
心理コミュニケーション演習3 A	2
心理コミュニケーション演習3 B	2
心理コミュニケーション演習4 A	2
心理コミュニケーション演習4 B	2

2025年度 フェリス女学院大学大学院要覧

---

2025年4月1日 発行

発行 フェリス女学院大学

緑園校舎 〒245-8650 横浜市泉区緑園4-5-3

TEL 045-812-8211(代表)

山手校舎 〒231-8651 横浜市中区山手町37

TEL 045-681-5150(代表)

印刷 株式会社 野毛印刷社

---

フェリス女学院大学公式webサイト <https://www.ferris.ac.jp/>

